

令和元年度

地域貢献活動報告書



群馬県立県民健康科学大学

令和元年度

地域貢献活動報告書



群馬県立県民健康科学 地域社会と交流を図り、

専門職向け事業

県立病院連携事業



心臓血管センター

各病院が抱える課題解決
に向け組織レベルで展開

病院局



がんセンター



精神医療センター



大学



小児医療センター

共通
テーマ

- ▶ 4病院共通看護職員のキャリア開発の現状と課題（看）
- ▶ 共同研究を通じた人材育成と大学への知の還元（放）
- ▶ 備品の長期貸出（放）

看護学教員養成課程

- ▶ 県内の看護師等養成所の看護学教員や医療現場で看護学教育の実践指導者を担当する者への教育機会の提供
- ▶ 本学の理念を貫くカリキュラムによる本学ならではの教育展開



課程生



課程生

課程生

学部教育（看護技術学演習）の参加観察

看護師特定行為研修事業（予定）

- ▶ 看護師特定行為の指定研修機関の認可を受け、在宅医療の推進に貢献できる特定看護師を育成するための研修機会を提供



看護職研究支援事業

- ▶ 「看護研究セミナー」と「看護研究個別支援」による看護職者への研究活動の支援
- ▶ テーマに合わせた担当教員の決定、10か月にわたる個別支援



講義：研究計画書の作成

講義：文献検索と文献検討

講義：研究における倫理

看護研究個別支援

「看護研究セミナー」と「看護研究個別支援」

放射線教育・研修事業

- ▶ 学習指導要領の改訂に伴う学校教員等に対する放射線教育の支援
- ▶ 診療放射線技師の撮像技術向上、MRI 専門技術者の資格取得を視野に入れた継続教育の実施



「国際協力型先端医療医学物理学指導者
コース講演会」



本学におけるMRI 講習会

看護学分野

- 看護学教員養成課程
- 看護師特定行為研修事業（予定）
- 看護職研究支援事業

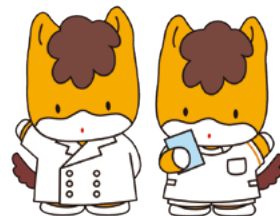
- 県立病院連携事業
- 健康福祉政策事業
- 教育普及事業

県立の医療系大学とし
知的財産や研究成果な
広く関係機関、医療従
し還元することにより、
福祉の向上に寄与する

目指す地域貢献

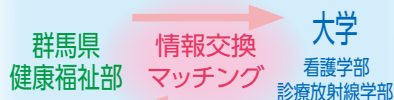
学生と教職員が一体となって
取り組む地域貢献

大学地域連携センター2019 ともに発展することを目指して



行政との協働事業

健康福祉政策事業



- ▶ 認知症サポーター・ステップアップ講座教材の普及活動
- ▶ 子育て講座プログラム政策・普及への協力
- ▶ 健康福祉部保健予防課主催の「若い世代の食育推進協議会」への参加
- ▶ 群馬県保健福祉事業所等における胸部X線撮影時の医療被ばく線量測定

健康寿命延伸プロジェクト

群馬県保健予防課

県民健康科学大学

- 地域の実態把握・課題分析・健康課題の明確化
- 調査研究・実践プログラムの開発・人材育成

科学的根拠に基づいた健康づくり対策の展開

- ① 健康福祉部との健康寿命延伸シンポジウム開催等の協働事業
- ② 小規模町村支援事業
(榛東村との健康づくり推進に関する包括協定)
- ③ 館林市健康寿命延伸プラットフォーム事業への協力
- ④ 大学周辺地域における高齢者サロン等への協力
- ⑤ 小中学生保護者会向けの講演会等で活用できる生活習慣改善のための健康教育教材の開発
- ⑥ 群馬県立ゆあひピック記念温水プールにおける健康増進効果検証事業に対する取り組み
- ⑦ ぐんま元気エクステンションセミナーの開催



診療放射線学分野

- 放射線教育・研修事業
- 放射線測定協力事業

- 地域連携推進事業
- 健康寿命延伸プロジェクト

て、大学が所有する
ものを、県民をはじめ
事者、行政などに対
県民の保健・医療・

の方向性

放射線測定 協力事業

- ▶ 自治体が定期的実施する空間線量率測定の助言・指導、測定結果の評価、報告書の作成
- ▶ 生活環境中の放射線に関する講習・研修

「県民の安全安心の提供」



◆放射線測定の様子 ◆講習会の様子 ◆空間線量マップ

県民向け事業

教育普及事業

- ▶ 県民向けの「公開講座」「公開授業」「出前講座」により本学の教育と研究成果を県民に直接的に還元



公開講座の様子



出前なんでも講座の様子

公開講座：一般県民の方を対象に、定期的に公開講座を実施
公開授業：「群馬県民の文化と生活」「環境と健康概論」「人間の発達と健康概論」
出前講座：出前なんでも講座に平成30年度42講座登録、希望に応じて展開
 H28年度8114名参加・H29年度8620名参加（164回開催）

地域連携推進事業

- ▶ 大学や本センターの活動を広く県民に周知
- ▶ 群馬県健康福祉部や他大学との連携、ボランティア活動により、県民の保健医療福祉に寄与する地域に根ざした取り組み

- ▶ リーフレットの作成
- ▶ News Letterの発行（年4回）
- ▶ 地域貢献活動報告書の発行

- ▶ ボランティア活動（地域および病院での活動）

- ▶ 県内他大学との協力・連携事業
・共愛学園前橋国際大学
・群馬大学



- ▶ 一般住民・団体を対象とした講演・研修
- ▶ 桂萱地区・芳賀地区住民との協働
- ▶ 他の教育機関における非常勤講師
- ▶ 地域に開かれた図書館

－令和元年度地域貢献活動報告書の発刊に寄せて－

本学は、「群馬県立県民健康科学大学」という名称が表わしますように、群馬県民の健康の向上を中核におき、県民本位の保健医療専門職を養成するという形で地域貢献に務めております。大学の使命の1つ“社会貢献”を着実に果たすため、より組織的な取り組みを実施する拠点として地域連携センターが設置され、8年が経過しました。その間、関係者の皆さまには、地域連携センターの事業の発展のために、ご支援とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

令和元年度は、新規事業を加え、次の10事業を積極的に展開いたしました。

「看護学教員養成課程」は、厚生労働省による専任教員養成講習会の認定を受け、本学独自のカリキュラムに基づく教育を提供しています。令和元年度は14名の修了生を輩出しました。

「県立病院連携事業」は、県立4病院の看護および診療放射線部門が抱える課題解決に向け、4病院共通もしくは個別のテーマに基づき、教員と専門職者の協働による取り組みを行いました。

「看護職研究支援事業」は、県内の看護職者を対象として研究セミナーを開催し、セミナー受講後の新規および継続グループの希望者に対して、10か月にわたる個別支援を行いました。

「放射線教育・研修事業」は、本学のMR I装置を活用し、診療放射線技師の撮像技術向上に向けた講習会、MR Iを用いた共同研究等を行いました。また、群馬県診療放射線技師会が開催する技術向上のための講習会に講師を派遣しました。さらに、県内診療放射線技師の国際学会発表を支援する講演会を行いました。加えて、がん放射線治療技術の教育セミナーを開催しました。

「放射線測定協力事業」は、要請のあった地域の放射線量測定を実施するとともに測定結果に基づく線量評価を行い、県民および地域の安心に繋がる情報提供を行いました。

「教育普及事業」は、公開講座、出前講座、公開授業を行いました。このうち、出前講座は、延べ4,946名の県民を対象に109回実施しました。

「地域連携推進事業」は、Newsletterや地域貢献活動報告書、センター事業のリーフレットを作成し、県民や関係機関への情報発信を行いました。「健康福祉政策事業」は、県の母子保健係と連携し、子育て講座のプログラム作成に着手しました。

「健康寿命延伸プロジェクト」は、県の健康福祉部保健予防課との協働による健康寿命延伸シンポジウムの開催、榛東村に対する小規模町村支援事業、館林市健康寿命延伸プラットホーム事業への協力、小中学生保護者会向け健康教育教材の開発、県立ゆうあいピック記念温泉プールにおける健康増進効果検証事業、ぐんま元気エクステンションセミナーの開催に取り組みました。

新たに、「看護師特定行為研修課程」をセンター事業に位置づけました。県内の慢性期・在宅医療等に貢献できる高度な臨床実践能力を修得し、チーム医療のキーパーソンとして協働できる人材の育成を目指します。令和元年度はその準備を進め、厚生労働省による研修機関としての指定を受けることができました。

以上のように、本学の地域連携センターは、着実に成果を積み重ねてきております。年度末には、新型コロナウイルス感染症の影響により中止せざるを得ない事業も複数ありましたが、この1年間の活動報告書を発行できる運びとなりました。皆さまに本学をご理解頂く一助としてご高覧頂けますと幸いです。

また、最後に、新型コロナウイルス感染症の勢いが収まらない中、人々の健康と命を守るためにご尽力頂いている保健医療関係者の皆さまに敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と皆さまのご健康をお祈り申し上げます。

令和2年10月

地域連携センター長 横山京子

目 次

I 地域連携センターの活動

1. 群馬県立県民健康科学大学 地域連携センター概要	
1) 設置概要	2
2) 事業概要	3
2. 事業報告	
1) 看護学教員養成課程	4
2) 看護師特定行為研修課程	6
3) 県立病院連携事業	8
4) 看護職研究支援事業	10
5) 放射線教育・研修事業	12
①放射線治療講習会	
②診療放射線技師CT・MRI研究会事業	
③診療放射線技師継続教育等事業	
④群馬県診療放射線技師会講習支援事業	
⑤国際化研究支援事業	
6) 放射線測定協力事業	19
7) 教育普及事業	20
8) 地域連携推進事業	22
9) 健康福祉政策事業（医務課、保健予防課）	23
10) 健康寿命延伸プロジェクト	25
11) ピックアップ	29
12) 出前講座 実績一覧	30
13) Newsletter	32
14) トピックス	40

II その他の地域貢献活動

1. 学会活動	42
2. 一般住民・団体対象の講演等	49
3. 保健医療専門職対象の講演等	51
4. 行政組織での活動	55
5. 任意団体での活動	57
6. 他教育機関非常勤講師	59
7. 報道記事	61

III 関連規程

・群馬県立県民健康科学大学地域連携センター設置運営規程	64
・群馬県立県民健康科学大学地域連携センター運営会議 及び地域連携センター運営委員会設置運営細則	65

I

地域連携センター の活動

1) 設置概要

本学はこれまで、看護師、保健師及び診療放射線技師の養成校として、臨床現場で活躍できる多くの医療専門職を育成することで、地域の医療水準及び県民の健康水準の向上に貢献してきました。そのような中、平成19年の学校教育法の改正等により、「社会貢献」が「教育」、「研究」に次ぐ大学の第3の役割に位置づけられたことを踏まえ、本学においても、これまで以上に地域貢献を推進するため、平成24年4月に大学附属機関として、地域連携センターを設置しました。

本学地域連携センターは、県立の医療系大学として、大学が所有する知的財産や研究成果等を、県民をはじめ、広く教育機関、医療機関、医療従事者、行政等に対し還元することにより、県民福祉の向上に寄与することを目的として、地域貢献に関する各種事業に取り組みます。

■地域連携センター運営会議構成員一覧

区 分		氏 名
委員長	地域連携センター長、健康寿命延伸プロジェクト	齋 藤 基
副委員長	地域連携副センター長、健康福祉政策事業	横 山 京 子
	地域連携副センター長、診療放射線技師継続教育等事業	小 倉 明 夫
委 員	看護学部長	巴 山 玉 蓮
	診療放射線学部長	下瀬川 正 幸
	看護学教員養成課程	高 橋 裕 子
	県立病院連携事業（看護学部）	廣 瀬 規代美
	県立病院連携事業（診療放射線学部）	上 原 真 澄
	看護職研究支援事業	飯 田 苗 恵
	放射線教育・研修事業 放射線治療講習会事業	佐々木 浩 二
	放射線教育・研修事業 診療放射線CT・MRI研究会事業	林 則 夫
	放射線教育・研修事業 群馬県診療放射線技師会講習支援事業	五十嵐 博
	放射線教育・研修事業 国際化研究支援事業	小 倉 敏 裕
	放射線測定協力事業	杉 野 雅 人
	教育普及事業	青 木 武 生
	地域連携推進事業	行 田 智 子
	事務局	大 嶋 伸 一
	（県健康福祉部健康福祉課）	平 井 敦 子
	（学外有識者：県看護協会）	荻 原 京 子
	（学外有識者：県診療放射線技師会）	後 閑 隆 之
	（学外有識者：県医師会）	下 城 茂 雄
	（学外有識者：県立心臓血管センター）	内 藤 滋 人

2) 事業概要

事業名	事業概要
1 看護学教員養成課程 P.4～5	看護師養成教育機関の看護学教員や臨床現場で教育的役割を担う教育担当事者を対象とし、看護基礎教育に携わる教育者としての役割を遂行するために必要な知識・技術を教授する。大学主体で看護基礎教育に携わる教育者の教育実践能力の維持向上を図る。
2 看護師特定行為研修課程 P.6～7	看護師特定行為研修の研修機関として指定を受け、在宅医療に貢献できる特定行為研修修了者を育成するための研修の機会を提供する。
3 県立病院連携事業 P.8～9	県病院局総務課、県立4病院（心臓血管センター、がんセンター、精神医療センター、小児医療センター）と本学で、4病院が抱える課題、たとえば人材育成等について、その解決に向けた連携事業を継続して、組織レベルで展開する。
4 看護職研究支援事業 P.10～11	県内の病院、行政機関、健診機関、訪問看護ステーション、福祉施設、事業所等に所属する看護師、保健師、助産師を対象に、看護研究を実施する際に必要な研究の基礎的知識を習得するための看護研究セミナーと、研究テーマに沿って看護研究の一連の過程を本学教員が支援する看護研究個別支援を実施し、県内の看護職者の研究活動を支援することで、研究能力の向上と県民の健康の保持・増進に寄与する研究成果の産出を図る。
5 放射線教育・研修事業 P.12～18	(1) 放射線治療講習会 がんプロフェッショナル基盤養成プランの一つとして、筑波大学を中心に取り組んでいる「関東がん専門医療人養成拠点」事業に沿って、放射線治療教育プログラムのセミナーを開催する。これを通じて、治療技術の普及や向上とともに、がんの早期発見に繋がる検診への関心を高める。 (2) 診療放射線CT・MRI研究会事業 県内の診療放射線技師の臨床研究支援事業として、臨床現場における画像診断検査の向上・発展を目的とする研究の推進と発表に必要な方法を討論する研究会を実施する。 (3) 診療放射線技師継続教育等事業 県内診療放射線技師の撮像技術向上事業として、「MRI専門技術者」資格の取得を視野に入れた講習会等を開催するほか、MRIを用いた共同研究と研修会を実施する。これらにより、診療放射線技師が最新の知識・技術を習得できるようにし、がん等の疾病の早期発見の機会の増加を図る。 (4) 群馬県診療放射線技師会講習支援事業 診療放射線技師の業務拡大に伴い、群馬県診療放射線技師会で行われる注腸造影検査および静脈注射（針刺しを除く）に関する講習会へ講師の派遣を行い、地域の診療放射線技師の技術向上に貢献する。 (5) 国際化研究支援事業 県内診療放射線技師の研究支援事業として、国際学会発表を目的とした講習会等を実施する。
6 放射線測定協力事業 P.19	放射線測定に関する助言・指導、測定値の解釈・評価、対策の立案・実施に関する助言等を通じて、県民に安全・安心の提供を図る。
7 教育普及事業 P.20～21	県民向けの公開講座、出前講座及び公開授業等を行い、地域貢献活動を積極的に行う。
8 地域連携推進事業 P.22	本センターの活動を広く県民に周知するために、地域連携センターNews Letter及び地域貢献活動報告書を発行する。また、学生ボランティア活動の支援体制の充実に取り組む。
9 健康福祉政策事業 P.23	健康福祉政策事業では、群馬県健康福祉部との情報交換会継続と、マッチングした事業の展開を図る。
10 健康寿命延伸プロジェクト P.25	平成28年度政策プレゼン「健康寿命延伸プロジェクトⅡーぐんまエクステンションプラン」を展開するため、健康福祉部保健予防課と協働し、「健康寿命延伸シンポジウム」及び「小規模市町村支援事業（榛東村）」、「ぐんま元気エクステンションセミナー」などに取り組む。

看護学教員養成課程

担当者／看護学部 ◎高橋(裕)講師、松田教授、山下教授、服部准教授、河内講師

1 事業目的・内容

県内および県外の看護師養成教育機関の看護学教員や臨床現場で教育的役割を担う教育担当者を対象に、看護基礎教育に携わる教育者としての役割を遂行するために必要な知識及び技術を教授する。

本課程は、群馬県委託契約に基づき、大学の企画・運営により看護学教育に携わる人材の育成に関わる事業として取り組んでいる。また、看護学教員の教育実践能力の維持向上に向け、継続的に学び続けられるような体制づくりに努める。

2 実施結果

(1) カリキュラム、授業計画に沿った授業の実施

ア 実施授業科目 20科目（基礎分野5科目、専門科目15科目）

イ 総カリキュラム時間数：885時間

ウ 教育実習

看護学教育授業展開論Ⅱ（講義）・看護学教育授業展開論Ⅳ（実習）

実施期間：令和元年10月15日（火）～11月29日（金）

本学、および県内看護師養成教育機関において実施

(2) 公開授業

看護学教育授業展開論Ⅱ（講義）

日程：令和元年7月30日（火）、31日（水）：参加者38名

看護学教育授業展開論Ⅲ（演習）

日程：令和2年2月27日（木）：公開中止（新型コロナウイルスのため）

(3) 令和元年度看護学教員養成課程修了式

日程：令和2年3月23日（月）修了生：14名

修了後は、看護師養成教育機関の教員または病院の教育担当者として勤務

(4) 厚生労働省「教育訓練給付金制度（一般教育訓練）」指定講座認定：該当者5名

(5) 2021年度看護学教員養成課程学生募集（募集定員20名）

ア 看護学教員養成課程説明会の実施 令和元年6月1日（土）：参加者9名

イ 本学ホームページ、および上毛新聞に課程生募集の案内掲載

ウ 看護学教員養成課程の紹介パンフレットを作成し、関東甲信越・東北地方の3年課程看護師養成教育機関への課程生募集の案内送付

エ 群馬県看護学会にて、県内施設の活動紹介として展示、学生募集の説明実施

オ 実習指導者講習会、病院看護業務研究会等にて、学生募集の説明実施

カ 入学者選抜試験：第1回 令和元年12月19日（木）

合格者：12名

第2回 令和2年2月20日（木）

合格者：2名

3 事業成果・効果

本課程は、大学の学習環境を最大限に活用し、学部教育との連携を図りながら授業を提供している。課程生は、本課程独自のカリキュラムに基づき、学習した知識と教育実践とのつながりを持ちながら、1年間学習することを通して、教育実践に必要な能力を修得している。修了後は、看護学教員として、また病院の教育担当者として自信をもって活躍している。修了生、県内看護専門学校教員への公開授業の開催は、看護学教員が継続してスキルアップをするための機会となった。これらを通し、群馬県の看護基礎教育の質向上に貢献している。

4 事業の課題及び改善の方向性

入学者確保に向けて、学生募集活動を強化しているが、近隣の講習会開催の影響もあり、欠員が生じている。今年度は、課程の説明会開催を実施し、参加者の受験につなげることができた。次年度も、本課程の理解につながる活動を強化していく。さらに、課程生がより学習しやすいようにカリキュラム内容、学習方法等について検討することにより、看護学教員養成課程事業の推進を図る。



看護師特定行為研修課程

担当者／看護学部 ◎齋藤センター長、巴山学部長、高井教授、行田教授、横山教授、廣瀬教授、
狩野教授、宮崎教授、大澤教授、飯田准教授、田村助教
診療放射線学部 瀬川教授

1 事業目的・内容

看護師特定行為研修の研修機関として指定を受け、在宅医療に貢献できる特定行為研修修了者を育成するための研修の機会を提供する。

2 実施結果

(1) 看護師特定行為研修事業に係る設置準備

- ア 指定研修機関及び協力施設からの情報収集
群馬中央病院、内田病院（日本慢性期医療協会・群馬県慢性期医療協会）
佐久大学、自治医科大学、美原記念病院、前橋赤十字病院
期 間：平成31年4月～令和元年12月
- イ 関係会議への出席
 - a 群馬県慢性期医療協会支部会：協力施設に係るアンケート実施
 - b 県立病院看護部長会議
期 間：平成31年4月～令和元年5月
- ウ 通信による研修に係る情報収集
放送大学学園、学研メディカルサポート
期 間：令和元年10月

(2) 研修内容の検討

- ア 看護師特定行為研修ワーキングの開催 13回
期 間：平成31年4月～令和2年3月

(3) 協力施設の確保

- ア アンケート結果に基づき5施設への依頼
内田病院、くすの木病院、角田病院、ほたか病院（現群馬パース病院）、希望館病院
期 間：令和元年5月～6月
- イ 群馬県慢性期医療協会会議における病院長への説明の実施
- ウ 協力施設の承諾及び指定申請書作成の依頼

(4) 非常勤講師の依頼

- ア 共通科目の学内実習担当講師依頼
- イ OSCEの評価者担当講師依頼

(5) 広報活動

- ア 研修概要等に係る内容を本学ホームページに掲載
- イ 看護師特定行為研修受講者募集リーフレットの作成
- ウ ナースのためのスキルアップセミナーの開催（群馬県慢性期医療協会共同主催）

日 時：令和元年9月24日（火）午後18時30分～20時00分

場 所：群馬県立県民健康科学大学 第21講義室

講 師：群馬県健康福祉部医務課 看護係長 永井佳美氏

群馬県立県民健康科学大学 准教授 飯田苗恵氏

群馬県看護協会 会 長 荻原京子氏

介護老人保健施設大誠苑 看護師 大嶋玲子氏

美原記念病院 看護部長 高橋陽子氏

内田病院 理事長 田中志子氏（施設名は略称である）

出席者：107名

（6）講習会への参加

ア セコム医療システム株式会社主催特定行為研修指導者講習会

イ 自治医科大学主催特定行為研修指導者講習会

ウ 日本慢性期医療協会主催特定行為研修指導者講習会

エ 「ナースングアン」アドバンスコース研修

期 間：令和元年8月～令和2年2月

（7）指定研修機関の申請書類の作成及び指定

ア 指定研修機関申請書類の事前相談

イ 指定研修機関申請書類の提出

ウ 実地調査を受審

エ 令和2年2月26日付、指定研修機関として指定を受ける

（8）看護師特定行為研修課程受講者選抜試験

合格者：令和2年2月：合格者5名

3 事業成果・効果

今年度は、令和2年度看護師特定行為研修の開講に向けて、群馬県慢性期医療協会の協力により協力施設を5病院確保するとともに、ワーキングを通して、指定研修機関の申請のための準備を行った。申請書は11月29日に提出し、12月26日に実地調査が行われ、その結果、令和2年2月26日付で看護師特定行為研修指定研修機関として指定を受けることができた。また、協力施設に対して受講者の募集を行い、選抜試験を令和2年2月に実施し、5名の合格者を決定することができた。

9月に本学で開催された看護師特定行為研修に関するセミナーでは、107名の参加者のうち、アンケートへの回答者は86名であり、参加者の職種は看護師が全体の9割を占め、職位は管理職が7割であった。受講動機は、「関心がある」が7割、満足度は、「非常に満足」「満足」が8割であった。セミナーに参加し、今後に役立つ点は、「特定行為研修の受講」「特定行為研修後の看護実践」「人材育成」等であり、全体的に良い反応が多くみられた。セミナーの開催は、県内の医療関係者への特定行為研修の周知とともに、受講希望者からの問い合わせも多いことから、今後の受講生募集活動に効果的であった。

4 事業の課題及び改善の方向性

来年度の看護師特定行為研修課程の開講に向けて、シミュレーター等の準備を進めているところであり、学習環境を十分に整備することが課題である。また、学内演習や実習、臨地実習における指導者ガイドライン、手順書の作成等の研修内容に関する概要は作成しているが、具体的な内容については、今後の課題であり、指導者講習会や情報収集で得られた内容を基に関係者で検討していく必要がある。

県立病院連携事業

担当者／看護学部 ◎廣瀬教授、横山教授、松田教授、富永講師、金谷(文)助教
診療放射線学部 ◎上原教授、渡部准教授

1 事業目的・内容

4病院が抱える課題について、県立4病院（心臓血管センター、がんセンター、精神医療センター、小児医療センター）と県民健康科学大学とが協働して、その解決に向けた連携事業を継続して展開する。

2 実施結果

<看護部門>

(1) 4病院共通

ア 令和元年度連携事業打ち合わせ会議

イ 日 時：令和元年9月6日（金）

ウ 出席者：北爪看護人材支援専門官、大橋心臓血管センター看護部長（看護主監）

清水(栄)がんセンター看護部長、茂木精神医療センター看護部長、清水(奈)小児医療センター看護部長、齋藤センター長、横山副センター長、廣瀬教授

エ 内 容：(ア) 平成24年度～30年度までの病院及び大学の取り組み概要の確認

(イ)「群馬県立病院看護職者の学習ニーズ・教育ニーズ診断結果に基づく各病院の研修プログラムと4病院共通の教育・研修プログラムの再構築」のテーマ継続と運用に関する確認

(ウ) 県立4病院共通課題に関する確認

(エ) 今年度の活動方針および情報共有の必要性に関する確認

(2) 小児医療センター

ア テーマ：先輩看護職全員による新人看護職教育への参加

イ 講 師：富永明子講師

ウ 実施状況：

令和元年7月8日（月）：プリセプターフォローアップ研修①

参加者：プリセプター 13名、指導者 4名、教育担当師長 1名

令和元年10月11日（金）：プリセプターフォローアップ研修②

参加者：プリセプター 13名、指導者 4名、教育担当師長 1名

令和2年2月28日（金）：プリセプターフォローアップ研修③

参加者：プリセプター 13名、指導者 4名、教育担当師長 1名

令和2年3月2日（月）：プリセプター研修

新型コロナウイルス感染症拡大防止対応として対面式研修を中止とし、研修資料の配布にて対応した。

<診療放射線部門>

県立病院へのニーズ調査、大学教員とのマッチング及び来年度の実施に向けた打合せ会議等を適宜実施する予定であったが、今年度は各病院からの具体的な要望がなかったため実施に至らなかった。

県内病院向け事業として備品の貸出事業を行った。

貸出件数は、県内2団体に3件の貸出、県内医療機関5施設に5件の貸出を行った。

貸出備品はマンモグラフィー用ファントム、電離箱線量計、CT用人体ファントム、膝関節ファントム等であった。貸出目的は研修会、認定資格取得目的、撮影技術向上目的等であった。

3 事業成果・効果

<看護部門>

県立病院連携事業担当者及び看護部長交代に伴い、本事業の目的と取り組み概要を整理し、今後の活動方針を明確化・情報共有を図った。4病院共通課題の継続事業のうち、看護管理者（副看護師長）の研修プログラムの構築に向けた、研修の教育内容と教育方法の見直しを検討した。各病院の看護部長をリーダーとする各プロジェクトチームと看護人材支援専門官が主体となり、課題達成に向けた計画を遂行出来ていた。本学教員は、課題の現状について情報を共有し、相談に応じる役割を担った。また、本事業の運営方法について、4病院連携事業会議の年2回の開催、連絡調整方法等を確認した。

<診療放射線部門>

備品貸し出しは、県内民間病院等へ線量計の貸し出しを実施した。多様な団体・施設から依頼を受け備品貸出しを実施したが、利用目的も研究会や学会発表など多岐にわたっていた。県内の医療機関の技術向上に寄与することができたと考える。

4 事業の課題及び改善の方向性

<看護部門>

平成29年度から4病院共通事業を継続中である。「学習ニード・教育ニードの調査結果に基づく根拠のある教育プログラムの再構築」とそのプログラムにより看護職の教育の推進を図ることができれば、県民に質の高い看護を提供することが可能となる。令和2年度は、4病院共通ラダーに基づき、副看護師長を対象とした研修プログラムの立案に取り組み、課題解決を目指す。特に、理論と実践を統合する上での基礎的知識を得ることを目的に、研修の目標レベルの設定、教育内容の抽出及び教育方法の検討により、研修プログラムの構築につなげ課題解決を図ることが必要である。

新人看護職の指導的立場にある看護職者の教育的支援に対する意識は高まりつつある。プリセプターのみならず、様々な立場の人々に資する情報や学習機会の提供及びコンサルテーションは、継続して実施予定とする。また、院内の教育支援担当者の育成に向けた検討も必要である。

<診療放射線部門>

令和元年度に実施した事業に、引き続き取り組む。事業効果を最大限に得るために県立病院と密に連絡を取り合いながら事業を進めていく必要がある。また、備品貸し出しについては、県内民間病院への適応拡大に向けた準備と試行を引き続き実施していきたいと考える。

看護職研究支援事業

担当者／看護学部 ◎飯田准教授、上山准教授、橋本講師、木村講師、浅見講師、佐々木助教、丸澤助教

1 事業目的・内容

県内の医療機関、行政機関、訪問看護事業所、福祉施設等に所属する看護師、保健師、助産師を対象に、看護研究を実施する際に必要な研究の基礎的知識を習得するための「看護研究セミナー」を実施する。全セミナーを受講した者に対して研究計画を募集、研究の一連の過程を本学教員が支援する「看護研究個別支援」を実施し、県民の健康の保持・増進を担う県内看護職者の研究活動および看護実践上の課題解決等を支援する。

2 実施結果

(1) 看護研究セミナー

- ア 第1回講義「看護研究計画書の作成」(木村講師)
- イ 第2回講義「看護研究における倫理と手続き」(橋本講師)
- ウ 第3回講義・演習「看護研究のための文献検索と文献検討」(佐藤講師)

(2) 看護研究個別支援

10グループに対して、支援担当教員を各1名及び2名配置し支援を開始したが、テーマ変更により1グループ中止(10月)、9グループの支援が終了となった。

(3) 看護研究個別支援(継続)

平成30年度に個別支援を行った10グループのうち、継続支援の希望があった6グループに対し、各支援担当教員が継続して支援を行った。

(4) 研究成果報告会

平成29年度及び平成30年度の個別支援・継続支援を受けた対象者及びグループから3グループの研究成果と活動プロセスについて報告会を実施した。

3 事業成果・効果

(1) 看護研究セミナー

第1～3回のセミナーは平成31年4月20日及び令和元年5月11日に開催した。各セミナーは定員40名に、1回目49人、2回目47人、3回目47人の申込であった。参加者は、1回目48人(98.0%)、2回目45人(95.7%)、3回目41人(87.2%)であった。

申込者の実人数は52人、施設数は27施設、県内10保健医療圏の全ての医療圏の施設から看護職の参加があった。施設種類別の申込者は、病院が約7割で、市町村、事業所、訪問看護ステーション、看護師養成施設の順であった。県内全ての保健医療圏の病院を中心とした多様な施設の看護職が受講しており、県内の看護職者の研究活動の支援が行えていると考える。受講後のアンケート結果では、セミナーを活用できそうかの問いに「とてもそう思う」「そう思う」の回答がほとんどであり、県内の看護職の研究活動の支援ニーズに合致した効果的な内容であったと考える。

(2) 看護研究個別支援

看護研究セミナーの全てを受講した者の中で、研究課題を持ち、個別支援を希望する個人及び小グループを再度募集し、申請のあった12グループの研究テーマと指導教員とのマッチングを行い、その結果、10グループに対して個別支援を行った。

内訳は、県内病院6件、市町村2件、訪問看護ステーション1件、事業所1件であった。

支援教員の個別指導のもと、各施設に就業する看護職者が各々の施設での看護実践の中で抱える問題に着目した研究課題を明確にし、7月から研究活動を進めた。1グループあたり複数回の支援教員の直接指導を行い、その成果をまとめている。研究成果は、院内研究発表会、次年度の県内学会及び国内学会等での発表を予定している。これらの成果は、それぞれの看護実践での質向上が期待でき、県民の保健医療福祉の充実に貢献する可能性がある。

(3) 看護研究個別支援（継続）

昨年度の個別支援グループの中から、希望するグループに対する個別支援（継続）を実施した。昨年度の個別支援の10グループのうち、6グループが個別支援（継続）の申請を行い、学会発表や論文投稿等に向けて、研究活動を継続した。

県内の看護職者の研究活動を継続的に支援することで、研究能力の向上が見込まれ、全国学会での発表機会を得ているグループもあり、研究成果の産出に繋がっていると考える。

(4) 研究成果報告会

平成29・30年度の個別支援・継続支援を受けた対象者及びグループの中から3つのグループ（病院2グループ、健診機関1グループ）の研究成果と活動プロセスについての報告会を実施した。看護研究セミナーの受講者17人が参加し、個別支援による研究成果及び研究活動プロセスの説明を受けた後、報告者への質問や意見交換を行った。本会は、看護研究個別支援への動機づけとなっていると考える。

4 事業の課題及び改善の方向性

本年度は、昨年度と比較するとセミナー申込者が減少した。本年度の申込時、ホームページが改訂され、本事業に繋がるバナーが分かり難い印象であったため、次年度に向けてアクセスしやすいよう修正した。セミナー日程への看護職（病院勤務）の休みの調整が実施しやすいよう次年度のリーフレット等、早めの作成をした。

また、事務の合理化、個別支援についてのルールの特明確化に向け、募集要項の見直しを行った。事務の合理化として、①受講後のアンケートの内容を見直し、マークシート方式に変更した。②本事業への申込については、これまでメールか郵送であったが、次年度からメールのみとした。個別支援については、＜支援方法と注意事項＞として、受講者、支援教員が個別支援に関する共通理解ができるようルールを明示した。

本事業の広報と個人情報保護を踏まえ、所属と研究テーマおよび研究概要をHP等に掲載させていただくことを加筆した。

次年度も、本事業を通して、県民の健康の保持・増進を担う県内の看護職者の研究活動および看護実践上の課題解決等を支援する。

放射線教育・研修事業（放射線治療講習会）

担当者／診療放射線学部 ◎佐々木教授、高田准教授、大野准教授、五十嵐准教授

1 事業目的・内容

「多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン」に選定された、筑波大学を中心とした13大学による「関東がん専門医療人養成拠点」事業に沿って、放射線治療教育プログラムのセミナーを開催した。これを通じて、放射線治療技術の普及や向上とともに、がんの早期発見に繋がる検診への関心を高めた。

2 実施結果

(1)「関東がん専門医療人養成拠点」事業への参画

ア 第1回「医学物理学講演会」

開催日：令和元年12月15日

開催場所：群馬県立県民健康科学大学 多目的ホール

参加者：県内外の診療放射線技師、医学物理士、機器開発者、学生（59名）

内 容：小児がんの放射線治療技術、放射線治療技術に関する最近の話題

小児・AYA世代がんの放射線治療と陽子線治療の実際についての知識を深め、最新の治療であるIMRT治療計画のピットフォールを学んだ。また、本年度から改正された法令への実務的な対応について講義された。非常に有用で実務に役立つ内容が多く、知識の再構築に有用と好評であった。

イ 第2回「医学物理学講演会」(中止)

開催日：令和2年3月14日（予定）

放射線治療装置および放射線治療計画装置の進歩をテーマとして、種々の放射線治療装置導入の実際を学び、近年進歩している放射線治療計画装置（コンピューターシミュレーション）の最新機能と活用方法に関する講演を企画したが、コロナウイルス感染防止のため中止とした。

(2) 群馬放射線治療技術研究会を後援

ア「放射線治療 群馬ハンズオンセミナー」(群馬放射線治療技術研究会)

開催日：令和2年1月25日

開催場所：前橋赤十字病院 講堂・放射線治療室

参加者：県内外の診療放射線技師、医学物理士（35名）

内 容：群馬放射線治療技術研究会を後援した。放射線治療装置の構造に関して講義により学び、さらに実際の装置や回路を見て触ることによるハンズオン形式のセミナーとした。最新の放射線治療室の設備を用いて、放射線出力調整の方法論や治療装置の細部の構造等を学んだ。

3 事業成果・効果

群馬県内のみならず広域で放射線治療に携わる診療放射線技師、医学物理士、開発者および学生が講演会により知識を吸収し、ディスカッションを通して普遍的な放射線治療の概念と最新の治療技術を知る機会を提供した。本年度は、がんプロフェッショナル基盤養成プランに沿って、小児・AYA世代がんの放射線治療技術について学び、最新の放射線治療であるIMRTに関するピットフォール、さらには法令改正への対応等幅広い知識の共有ができた。県内の医療機関においてこれらが応用されることが期待される。また、群馬放射線治療

技術研究会を後援し、臨床においてすぐに利用できる技術と知識を習得し、問題解決能力の向上に資する内容であった。放射線治療技術の向上は、群馬県で治療を受ける患者の利益につながる有意義な活動である。

4 事業の課題及び改善の方向性

放射線治療に携わる医療従事者の育成については、県がん対策推進条例においても明記されており、専門的な医療従事者の質的向上を図る必要がある。

今後も、「関東がん専門医療人養成拠点」事業への参画や、本学独自のセミナーの開催等を通じ、放射線技術系の基礎教育や継続教育に取り組んでいく。



放射線教育・研修事業(診療放射線技師CT・MRI研究会事業)

担当者／診療放射線学部 ◎林准教授、小倉(明)教授、渡部准教授

1 事業目的・内容

県内の診療放射線技師の臨床研究支援事業として、臨床現場における画像診断検査の向上・発展を目的とする研究の推進と発信に必要な方法を討論する研究会を実施する。これらにより、診療放射線技師の発展的な研究を支援し、大学院への進学や臨床研究の推進を導く。さらに臨床研究の推進により医療機関における医療技術の向上や高度医療の提供による県民への医療サービス向上を目指す。

2 実施結果

(1) 第15回健科大CT・MRI研究会の開催

日 時：令和元年6月17日、開催場所：本学第11演習室、参加人数：21名

内 容：参加者による臨床研究の相談及び討論（グリッドに対するX線斜入に関する研究、DWIファントム作成に関する研究、他）

(2) 第16回健科大CT・MRI研究会の開催

日 時：令和元年12月9日、開催場所：本学第11演習室、参加人数：17名

内 容：参加者による臨床研究の相談及び討論、論文抄読会（QSMに関する文献）

3 事業成果・効果

群馬県内の医療施設における臨床現場における疑問点を、臨床研究課題に転換する方法や、データを取りながらより良い画像診断技術にフィードバックできる方法について参加者で議論を行った。各施設においてより良い画像診断検査について再考する機会になった。

また第16回より論文抄読会を取り入れた。中小規模の病院では医学雑誌などを購入されておらず、新しい技術や情報を入手する機会が少ない。今回は新しいMR画像コントラストであるQSMについて原理や臨床での使用報告について参加者で論文を抄読して議論を行うことができた。

4 事業の課題及び改善の方向性

大学病院などのように研究指導者がいる病院では当たり前の臨床研究の方法や助言を受けられない医療機関において、臨床研究を推進するために本事業により有意義な研究討論を重ねることができたと考える。これより、県内の先端画像診断技術を他県や他施設に広くアピールすることができ群馬県の医療技術の高さを広報できるとともに、研究遂行により各医療機関において技術向上がさらに図られる環境が整備できたと考える。

また当研究会参加者が、大学院への進学などを検討するいい機会になった。実際に参加者1名が令和2年度より大学院へ進学することになった。

放射線教育・研修事業（診療放射線技師継続教育等事業）

担当者／診療放射線学部 ◎小倉(明)教授、大野准教授、林准教授

1 事業目的・内容

診療放射線技師の撮像技術向上事業として、「MRI用ファントム作成」講習会等を開催するほか、MRIを用いた共同研究と研修会を実施する。これらにより、診療放射線技師が最新の知識・技術を習得できるようにし、がん等の疾病の早期発見の機会の増加を図る。

2 実施結果

(1) 本学MRI装置を用いたMRI講習会の開催

実施日：令和元年8月31日・9月1日

開催場所：MRI室、多目的ホール

参加者数：診療放射線技師13名

講習内容：磁気共鳴専門技術者取得のための講習

(2) 群馬MR研究会への支援

実施日：令和元年5月15日 令和元年6月19日 令和元年7月17日 令和元年9月18日

令和元年10月16日 令和元年11月20日 令和2年2月19日

開催場所：本学多目的ホール

支援内容：開催場所の提供と講師の派遣

(3) CT・MRIに関する他施設との共同研究の実施

ア 施設名：伊勢崎市民病院

研究内容：脳脊髄液等隣接微小脳梗塞ファントムの作製

研究報告：第47回日本磁気共鳴医学会大会発表

イ 施設名：城西クリニック

研究内容：The slow component ADC is replaced by washout of the DCE for prostate cancer

研究報告：RSNA2019で発表

3 事業成果・効果

近年、施設で施行するMRI検査において、例えばMRI対応型条件付きペースメーカを体内に保持する患者さんを検査するためには、施設に磁気共鳴専門技術者の存在が必須となるなど、磁気共鳴専門技術者の社会的需要が広がっている。このセミナーは、地域の診療放射線技師を対象として磁気共鳴専門技術者を取得するための講習会であり、地域の住民の健康促進に貢献する企画である。

4 事業の課題及び改善の方向性

現在まで数回、磁気共鳴専門技術者取得のための講習会を開催してきたが、その成果があり県内の診療放射線技師の取得率も向上したため、2年間は異なるセミナーを開催した。本年度は2年ぶりにこの講習会を開催したが、今後も数年ごとの開催を考慮する。いずれにしても、県内外の診療放射線技師の継続教育に取り組むとともに、教育・研究機関としてMRIを導入した優位な環境を生かし、共同研究等も進める。

放射線教育・研修事業(群馬県診療放射線技師会講習支援事業)

担当者／診療放射線学部 ◎五十嵐准教授、米持助教

1 事業目的・内容

診療放射線技師の業務拡大に伴い、群馬県診療放射線技師会で行われる注腸造影検査および静脈注射（針刺しを除く）に関する講習会（業務拡大に伴う統一講習会）へ講師の派遣を行い、地域の診療放射線技師の技術向上に貢献する。また、関連の講習事業についても開催支援を行い、診療放射線技師のさらなる知識・技術の向上に貢献する。

2 実施結果

(1) 業務拡大に伴う統一講習会

ア 講習会名：業務拡大に伴う統一講習会（北関東地域）

開催日：令和元年7月6日（土）～7月7日（日） 開催場所：本学多目的ホールほか

講師名：川上裕先生（栗生楽泉園）、上原真澄教授、五十嵐博准教授 参加人数：37名

イ 講習会名：業務拡大に伴う統一講習会（北関東地域）

開催日：令和元年12月1日（日）・12月8日（日） 開催場所：本学多目的ホールほか

講師名：川上裕先生（栗生楽泉園）、武田久先生（伊勢崎市民病院）、上原真澄教授、五十嵐博准教授
参加人数：56名

※本学からの支援（会場運営・受付等）：五十嵐博准教授、米持圭太助教

(2) 令和元年度 群馬県がん検診エックス線撮影従事者講習会

ア 第1回：令和元年9月10日（火）

（ア）演題名『医療法施行規則の一部改正について－改正の概要と現場での対応－』

講 師：日本放射線公衆安全学会 諸澄邦彦先生

（イ）演題名：『医療被ばく相談の基礎と実践』

講 師：五十嵐博准教授 参加人数：54名

イ 第2回：令和元年10月8日（火）

（ア）演題名：『乳がん検診の現状とマンモグラフィの最新情報』

講 師：ぐんまマンモグラフィ向上委員会 新井敏子先生

（イ）演題名：『マンモグラフィの画像評価について ～画質とポジショニング～』

講 師：富士フイルムメディカル株式会社 浅野省二先生 参加人数：68名

ウ 第3回：令和元年11月12日（火）

演題名：『胸部XPの読影入門・ABC（総集編）Part4』

講 師：社会医療法人輝城会 城西クリニック 松本満臣先生 参加人数：41名

エ 第4回：令和元年11月30日（土）

演題名：『胃癌を巡る最近のトピックス』

講 師：東京都がん検診センター 消化器内科医長 水谷 勝先生 参加人数：29名

会 場：群馬県立県民健康科学大学 西棟1階 多目的ホール

*第4回のみ群馬県健康づくり財団 6階 大会議室

※本学からの支援（会場運営・受付等）：五十嵐博准教授

(3) 診療放射線技師のためのフレッシューズセミナー

開催日：平成31年4月21日（日） 開催場所：本学多目的ホール

講師：後閑隆之先生（群馬県診療放射線技師会）、青木里佳先生（医療法人石井会 渋川伊香保分院）、上原真澄教授、五十嵐博准教授

参加人数：11名

※本学からの支援（会場運営・受付等）：五十嵐博准教授、米持圭太助教

(4) 日本診療放射線技師会主催「基礎技術講習（超音波検査）」

開催日：令和2年1月26日（日） 開催場所：本学多目的ホール

講師：青木里佳先生、内村裕一先生（医療法人石井会 渋川伊香保分院）、吉田人美先生（医療法人瑞穂会 みさと診療所）、渡部晴之准教授

参加人数：17名

※本学からの支援（会場運営・受付等）：五十嵐博准教授、米持圭太助教

(5) 群馬県診療放射線技師会主催「医療被ばく低減施設認定のための講習会」

開催日：令和元年7月20日（土） 開催場所：本学多目的ホール

講師：小黒清先生（獨協医科大学病院）、佐藤洋一先生（石和共立病院）、佐藤寛之先生（聖マリアンナ医科大学病院）、安藤大輔先生（群馬県診療放射線技師会）

参加人数：81名

※本学からの支援（会場運営・受付・司会等）：五十嵐博准教授、米持圭太助教

(6) 群馬県診療放射線技師会共催「医用画像管理セミナー」

開催日：令和元年11月16日（土） 開催場所：本学21講義室

講師：関連企業等 参加者数：45名

※本学からの支援（会場運営・受付等）：米持圭太助教

3 事業成果・効果

診療放射線技師の業務拡大に伴い、開始された講習について講師を派遣し、群馬県内外の技術レベルの向上に寄与することができた。また、がん検診エックス線撮影従事者講習会等の開催にも協力することで、県内のがん検診に従事する診療放射線技師のさらなる知識・技術の向上についても活動することができた。

4 事業の課題及び改善の方向性

業務拡大に伴う統一講習会については、平成27年度から新設された講習会だった。

本学から講師派遣、会場提供を行い、5年間で335名の受講があった。統一講習会の各都道府県開催は令和元年度をもって終了となるが、運営する群馬県診療放射線技師会のスタッフと実習指導をする本学スタッフがより密な連絡・調整をすることにより、現在以上にスムーズな開催ができると考える。講師派遣に加えて、講習会場として本学を活用することによって、講義と実習の実施等も円滑に進められると考える。

放射線教育・研修事業（国際化研究支援事業）

担当者／診療放射線学部 ◎小倉(敏)教授、林准教授

1 事業目的・内容

県内診療放射線技師の研究支援事業として、国際学会発表を目的とした講習会等を実施する。これらにより、県内の診療放射線技師が海外に研究内容を発信し、世界レベルのディスカッションが可能となるように、サポートすることにより、県内の医療がより発展することが期待できる。

【具体的な取組み】

- (1) 本学で行っている国際発表研究の紹介
- (2) 国際学会の申請の方法
- (3) 国際学会のスライド作成法・発表方法の講演

2 実施結果

(1) 国際化研究支援講演会開催

日 時：令和元年6月12日（水）18：00～19：00

会 場：本学22講義室

内 容：グローバル化と少子高齢化時代の在宅医療における超音波検査の役割

講 師：東京大学大学院医学系研究科 社会連携講座イメージング看護学特任准教授

参加人数：30名

(2) 第14回群馬産学官金連携推進会議

日 時：令和元年10月21日（月）10：00～18：10

会 場：前橋商工会議所会館内

内 容：本学の最新の研究内容の紹介

3 事業成果・効果

本事業において、診療放射線技師など医療スタッフに国際的研究の実際をお知らせし、海外でも活躍できるよう、国際感覚を身につけるための知識を吸収していただくことができた。そのことにより、県内の医療がより発展することが期待できる。また、県民の方々に国際学会で発表している最新の研究内容を紹介することができた。

4 事業の課題及び改善の方向性

県内の診療放射線技師等の研究支援事業として、国際的視野を身につけるための講習会を実施することができた。今後健科大にて、多くの方が世界を視野に入れた活動できるよう、講師を迎えて講習会を開く予定。

放射線測定協力事業

担当者／診療放射線学部 ◎杉野准教授、原教授

1 事業目的・内容

放射線測定に関する助言・指導、測定値の解釈・評価、対策の立案・実施に関する助言等を通じて、県民に安全安心の提供を図る。

2 実施結果

- (1) 赤城山中腹に設置された木質バイオマス発電所周辺の地域住民に安全と安心を提供するため、前橋市環境部環境政策課が空間線量率測定を4回（5、8、11、2月）実施した。その測定結果について監修および評価を行い、報告書を提出した。
- (2) みどり市の住民に安全と安心を提供するため、みどり市生活環境課が小中学校、公園等の施設計47箇所の空間線量率測定を4回（5、8、11、2月）実施した。その測定結果について監修および評価を行い、小コメントを提出した。
- (3) 毎年、川場村で行われている世田谷区小学5年生の移動教室に先立ち、川場村が宿泊施設およびキャンプ場等の空間線量率測定を行っている。その測定結果に基づいて線量評価を行い、報告書を作成した。報告書は、世田谷区教育委員会が行う「川場村移動教室説明会」において、世田谷区内の小学5年生の保護者に配付された。

3 事業成果・効果

今年度は、バイオマス発電所が本格的に稼働して2年目の空間線量率測定となった。発電所周辺の空間線量率について、稼働前と稼働後の測定値に差異がないことを確認し、地域住民に安全性を示すことができた。稼働前、地域住民から多くの心配と苦情が前橋市に寄せられていたが現在はほとんどなくなったとのことである。みどり市については、3ヶ月に1回、47施設において空間線量率測定が実施されており、その結果について小コメントを提出した。年間を通じて測定値に大きな変動はなく、住民からの質問等もない状況である。川場村については、世田谷区の移動教室で利用する宿泊施設やキャンプ場、ハイキングコース等において、昨年12月に空間線量率測定が実施されたが、測定結果は昨年とほぼ同様で問題はなかった。測定結果に基づいて作成した報告書を昨年12月末に川場村へ提出した。今後も線量評価の依頼があった自治体については、専門学的な立場から測定結果に対してのコメントを提示するとともに、各自治体のHPや説明会等を通じて公表し、住民に安全と安心を提供する。

4 事業の課題及び改善の方向性

東京電力福島第一原子力発電所の事故を契機に、原発由来の放射線および放射性物質に対する県民の不安解消の一助となるような活動を計画し遂行した。今後も環境中の放射線および放射能に関わる様々な疑問にお応えし、県民の不安や心配の解消に繋がるための活動を続けていく。また、自治体および市民団体等より、放射線・放射能に関する研修会、講演会等の要望があった際には、基礎的な知識獲得の支援や原発事故前後の県内の放射線量率の変動などについて情報を提供する。

これらにより、県民が正しい情報の理解を進めることができ、ひいては県民および地域の方々の安心感に繋がるものと考えている。

教育普及事業

担当者／看護学部 石川教授、森川准教授、鶴生川准教授、林講師、小西講師、金谷(文)助教
診療放射線学部 ◎青木教授、高橋准教授、大崎准教授、寺下講師

1 事業目的・内容

主にこれまで実施してきた県民を対象とした公開講座や講演会等の事業を引き続き行い、地域貢献活動を積極的に行う。

2 実施結果

(1) 公開講座の開催（本学主催の県民を対象とした講座）

ア 第1回公開講座 放射線治療ってなかに、重粒子線治療と何がちがう～がん治療の最前線～

講義1 「がんは二人に一人」の今、放射線治療を知っておこう

講義2 がん免疫と放射線治療～放射線治療と免疫療法を併用すると、1+1=3？

【開催日時】令和元年9月21日（土）13時～15時45分

【場所】本学 多目的ホール

【講師】講義1 群馬大学重粒子線医学研究センター 佐藤浩央先生

講義2 福島県立医科大学 鈴木義行先生

【受講者数】67名

【受講者からの意見】

- ・難しい説明をわかりやすく講義していただいた。大変ためになりました。
- ・放射線治療について、学べて良かった。興味があり、将来の夢にも繋がる講義でもっと興味が湧いた。
- ・両講座とも、とても興味深かった。がん治療を身近に感じられ、最新の治療など知識が得られて良かったです。質疑応答も良かったです。

イ 第2回「手・足・口を使った頭の体操で脳を活性化しよう！」

【開催日時】令和2年3月14日（土）

【講師】本学看護学部 講師 樋口友紀 講師 福島昌子

新型コロナ対策のため中止

(2) 出前講座

出張件数：109件

派遣教職員数：155名

参加者：延べ4,946名

本学出前講座 人気ベスト6

- ①No.33 うっかりミスはなぜ起きる 33回 <五十嵐准教授、瀬川教授>
- ②No.5 はたらく人のストレスーからだの声を聴くー 12回 <垣上正裕講師>
- ③No.6 生活習慣病の予防と対応策 8回 <廣瀬教授、浅見講師>
- ③No.7 あなたの血管年齢はいくつ？血管と生活習慣の話 8回 <大澤康子助教、高橋美穂子助教>
- ⑤No.12 ～ゆっくり、やさしく、ていねいに～タッピングタッチを体験してみよう
7回 <中野あずさ講師>
- ⑥No.14 高齢者に多い入浴の事故 4回 <大川准教授、高橋助手>
- ⑥No.15 転倒予防にむけた身体づくり「転倒予防体操を学ぼう」 4回 <樋口講師、福島講師>

(3) 公開授業（県民を対象とした本学学部授業の公開）

ア「群馬県民の文化と生活」 延べ人数 29名

イ「健康と環境」 概論 延べ人数 15名

ウ「人間の発達と健康」 概論 <通年科目> 延べ人数 71名

計115名

3 事業成果・効果

県立大学として求められる水準にふさわしい公開講座となるように企画立案された中から、実現可能なものについて、地域住民に向けて周知を図った。放射線治療について取り扱ったが、やや難しい内容にもかかわらず、非常に好評だった。また、どの講座においても、公開講座終了後に収集した参加者へのアンケート調査結果によれば、参加者においては高い満足度を得ることができている。2回目の講座については、新型コロナウイルス対応の為に、中止になってしまったが、在宅療養、訪問看護、ターミナルケア、疼痛緩和ケア、がん化学療法など、来年度の企画に役立てたいようなアンケートの調査結果も得られた。なお、出前なんでも講座の講師派遣や公開授業を通し、県民に本学の教育活動や教員が実施する研究を理解していただくと同時に、県立大学としての存在意義を再認識していただく重要な事業と位置付けている。

4 事業の課題及び改善の方向性

大学機能として地域貢献活動を盛り込んだ改正学校教育法の趣旨から鑑み、医療専門職だけでなく、地域住民をはじめ多くの県民の皆様、大学の知的財産を還元することが要請されている。本事業は、公開講座や講演会に加えて、要請の多い出前なんでも講座等にも新たなメニューを加えながら活動を行い、地域貢献活動を積極的に実施することを目指している。今後も県民の皆さまに各種教育普及事業をご活用いただけるよう、アンケートの結果を基に企画するとともに、広報活動に関わる地域連携推進事業と連携していく必要がある。しかし、次年度は新型コロナウイルスの感染状況に応じて慎重に事業を展開していく。

地域連携推進事業

担当者／看護学部 ◎行田教授、高井教授、大川准教授、中野講師、樋口講師、橋爪講師、金谷(悦)講師、鈴木(恵)講師、戸谷講師、垣上講師、益子講師、福島講師、高橋(美)助教、生方助教
診療放射線学部 原教授、川村助教

1 事業目的・内容

本センターの活動を広く県民に知っていただくために、地域連携センターNewsletter及び地域貢献活動報告書を発行する。また、学生ボランティア活動の支援体制の充実に取り組む。

2 実施結果

(1) 地域連携センターNewsletterの発行

- ア Vol.7／No.1 6月発行 特集：法人化で迎える令和の時代の地域連携センター
- イ Vol.7／No.2 10月発行 特集：地域連携センター新規事業 看護師特定行為研修への取り組み
- ウ Vol.7／No.3 1月発行 特集：「地域貢献」と「行政との協働」
- エ Vol.7／No.4 3月発行 特集：「群馬県立県民健康科学大学に期待すること」

(2) 平成30年度の地域貢献活動報告書の発行

(3) 地域連携センターリーフレット作成（特定行為研修開始のお知らせを含む）

(4) 学生ボランティア 積極的な活動支援

学生のボランティア活動：延べ12日、99名（ボランティアサークル活動除く）

「ボランティア活動案内に関する指針」の運用と「学研災でのボランティア保険の適用」に向けた取り組みを行った。

(5) 他大学との連携

- ア 共愛学園前橋国際大学のCOC＋「C3PG」への協力を行った（令和元年度末終了）。
- イ 「めぶく。プラットホーム前橋」へ参加した。

3 事業成果・効果

地域連携センターNewsletter、地域連携センターリーフレット、地域貢献活動報告書を発行することにより、本センターの活動を広く県民に情報発信することができた。地域連携センターリーフレットには、2020年度より開始する特定行為研修をわかりやすく説明し、掲載できた。

学生のボランティアへの積極的な参加は、学生自身の成長とボランティアを必要としている方々の支援につながり、地域に貢献できていると考える。

また、他大学との連携を通して、県内の大学卒業生の地元定着などにつながることが期待される。

4 事業の課題及び改善の方向性

本事業の主要な3つの活動は、群馬県民の皆様によりわかりやすく、適時に伝えることが重要である。その点で、地域連携センターNewsletter、地域連携センターリーフレット、地域貢献活動報告書は、さらに充実させていきたい。また、学生ボランティア活動は、①学生主体の情報交換の場や活動報告・発表会の検討、②学生ボランティア活動の広報、③活動支援には学生と教員、事務担当職員がともに連携していくことが求められている。

健康福祉政策事業（医務課、保健予防課）

担当者／看護学部 ◎横山教授 診療放射線学部 柏倉教授、米持助教

1 事業目的・内容

群馬県健康福祉部等と情報交換を行い、マッチングした事業の展開を図る。

- (1) 認知症サポーター養成支援（要請に応じて展開）
- (2) 県民の健康福祉施策の実現に向けた事業の協働展開
- (3) 県民の健康福祉に向けた施策の立案に必要なデータの分析、活用に係る調査研究等

2 実施結果

(1) 認知症サポーター養成支援

- ・ 渋川市地域包括支援センターにて講座を実施
- ・ 担当者：狩野教授
- ・ 実施状況：10月4日、30日 参加者のべ24名

(2) 県民の健康福祉施策の実現に向けた事業の協働展開

ア 子育て講座プログラム政策・普及への協力【継続】

子ども未来部児童福祉課母子保健課係と連携し、「ぐんまの親子 仲良しこよし 子育て講座」乳児編のプログラムを検討中

(ア) 担当者：行田智子教授、橋爪由紀子講師、林はるみ講師、生方尚絵助教

(イ) 実施状況：令和元年11月13日 母子保健係担当者と今後の計画を協議

イ 健康福祉部保健予防課主催「若い世代の食育推進協議会」への参加【継続】

(ア) 担当者：塩ノ谷朱美講師

(イ) 実施状況：令和元年6月13日 県内7大学教員と学生による協議会に出席

(ウ)「若い世代の食育に関するリーフレットの作成及び配布」も実施

ウ 「群馬県保健福祉事務所等における胸部X線撮影時の医療被ばく線量測定」

平成29年度より群馬県保健福祉事務所（10施設）に簡易半導体測定器を配布。現在も配布した測定器を使用したX線装置の日常的な精度管理を継続。測定データに関しては、各保健福祉事務所において管理されていることから、必要に応じて適切な対応の助言を行い、医療被ばく線量の最適化への取り組みを支援。

(ア) 担当者：米持圭太助教

(3) 県民の健康福祉に向けた施策の立案に必要なデータの分析、活用にかかる調査研究等

実施なし

※令和元年度は、健康福祉部との情報交換会は実施されなかった。

3 事業成果・効果

「認知症サポーター養成支援」

平成29年度に開発した認知症サポーター・ステップアップ研修教材を用いて地域の認知症サポーター養成の取組を支援した。これにより、認知症の人々を支える地域づくりの知識を普及することができた。

「ぐんまの親子 仲良しこよし 子育て講座」 乳児編プログラムの検討

群馬県の母子保健係責任者の交代に伴い今後の活動計画を協議し、次年度以降に子育て講座の乳児編プログラムを検討していく方針を確認できた。

「若い世代の食育推進協議会」参加

協議内容を共有できた。また、「若い世代の食育に関するリーフレットの作成及び配布」にも協力した。

「群馬県保健福祉事務所等における胸部X線撮影時の医療被ばく線量測定」

群馬県保健福祉事務所（10施設）に配布した簡易半導体測定器（10台）によるX線装置の日常的な精度管理を継続することにより、各保健福祉事務所におけるX線装置の日常的な精度管理方法を確立することが可能となった。

4 事業の課題及び改善の方向性

「認知症サポーター養成支援」については、今後も県内市町村からの要請に応じ、教材を用いて認知症サポーター養成を支援していく。

「ぐんまの親子 仲良しこよし 子育て講座」プログラム作成については、母子保健係と連携して完成させ、県内市町村に配布することを目指す。また、DVD作成も検討する。さらに、本学教員が子育て講座のトレーナー研修等を企画、運営し、市町村の保健師等に講義を実施していく。

「群馬県保健福祉事務所等における胸部X線撮影時の医療被ばく線量測定」については、精度管理の支援を継続する。また、定期的な測定器の校正を実施すること、組織化により多くの施設に発展・普及させることが今後の課題である。

健康福祉政策事業は、関連部門との情報交換に基づき、課題の重要性や取組の必要性に応じて、急遽発足し展開するという実態がある。教育・研究・地域貢献という3つのバランスをとりつつ、県民の健康福祉に資する活動を計画的に展開できるように、各部門と調整していく必要がある。

健康寿命延伸プロジェクト

担当者／看護学部 ◎齋藤センター長、宮崎教授、狩野教授、大澤(真)教授、清水准教授、塩ノ谷講師、鈴木(美)講師、坪井講師、佐藤講師、大澤(康)助教、久保助教
診療放射線学部 瀬川教授、長島准教授、佐藤准教授

1 事業目的・内容

平成28年度政策プレゼン「健康寿命延伸プロジェクトⅡーぐんまエクステンションプラン」を展開するため、以下の事業を実施する。

- (1) 健康寿命延伸シンポジウムの開催
- (2) 「元気に動こう・歩こうプロジェクトーぐんま元気の5か条は第1条の実践から」における「実践フォーラム」の開催【新規】
- (3) 小規模町村支援事業のモデル地区として選定した榛東村に対する取り組み
- (4) 館林市健康寿命延伸プラットフォーム事業への協力
- (5) 小中学生保護者会向けの講演会等で活用できる生活習慣改善のための健康教育教材の開発
- (6) 群馬県立ゆうあいピック記念温水プールにおける健康増進効果検証事業に対する取り組み
- (7) 沼田市「スマートウエルネスめまた推進事業」への協力【新規】
- (8) 「ぐんま元気エクステンションセミナー」の開催

2 実施結果

(1) 健康福祉部保健予防課との協働による「健康寿命延伸シンポジウム」の開催

みなかみ町及び健康福祉部保健予防課との協働による「健康寿命延伸シンポジウムinみなかみ～健康づくり教室番外編」を開催した。

- ア 開催日時：令和元年11月25日（月）9：30～12：00
- イ 開催会場：みなかみ町保健福祉センター 2階会議室
- ウ 本学の担当：あいさつ 齋藤センター長
- エ 講演：「みなかみ町の健康寿命は～特定健診等の結果から～」宮崎教授
- オ 参加者：約50名

(2) 「元気に動こう・歩こうプロジェクトーぐんま元気の5か条は第1条の実践から」における「実践フォーラム」の開催

健康福祉部保健予防課との共催による「元気に動こう・歩こうプロジェクト」に係る実践フォーラム開催を企画した。しかし、2月以降の国内での新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、開催を中止することとした。

ア 企画内容

「ぐんま元気の5か条」の第1条に焦点を当て、運動を中心としたプログラムを実施

(ア) ビンゴチャレンジ優秀賞の表彰

(イ) 基調講演

「100歳まで歩く～健康寿命の延伸は“動こう・歩こう”の実践から～」

講師：東京新宿メディカルセンターリハビリテーション士長 田中尚喜氏

(ウ) 事例紹介 県内の地域での取組紹介

a 開催予定日時：令和2年3月8日（日）13：30～16：00

b 開催会場：本学大講義室

- c 参加者：定員200名
- d 本学の担当：企画及び運営全般

(3) 小規模町村支援事業のモデル地区として選定した榛東村に対する取り組み

小規模町村支援事業のモデル地区として選定した榛東村に対して、以下の取り組みを行った。

ア 特定健診等のデータ分析

榛東村の平成30年度特定健診等のデータを分析し、住民の健康上の課題を具体的に提示した。

イ 健康づくりへの取り組み

(ア) 健診データの分析結果を榛東村広報誌「しんとう」に掲載した。また慢性腎臓病（CKD）予防のためのオリジナルリーフレットを作成し、特定健診等の受診者全員に配布した。

(イ) 「慢性腎臓病に関する講演会」における健診データに関する説明

「健康寿命を延ばそう～健診データからみえてくること～」のテーマで、健診結果の分析から具体的な生活習慣を取りあげて説明した。

ウ 保健事業計画策定等への参画

(ア) 第2期榛東村版総合戦略有識者会議に委員として参加し、村の計画等に対して意見を述べた。

エ 健診データ分析による共同研究

(ア) 榛東村との共同研究に取り組み、第78回日本公衆衛生学会において、2題の演題で発表した。

(イ) 昨年度の学会発表の成果を論文としてまとめ、本学紀要に投稿し、原著論文として掲載された。

(ウ) 榛東村から提案された身体活動量計を活用した研究については、研究協力者の依頼及びデータ収集を行った。

オ 小規模町村支援事業報告書の作成

(ア) 平成28年度～平成30年度の活動をまとめ、報告書として発行する準備を進めた。

(4) 館林市健康寿命延伸プラットフォーム事業への協力

館林市健康寿命延伸プラットフォーム会議の構成員として、会議に出席した。

また、館林市健康寿命延伸プラットフォーム専門委員会の「生きがいづくり及び情報発信に関する専門委員会」の会長に就任し、平成30年度に実施された生きがいづくりに関するアンケート調査の結果をふまえ、具体的な生きがいづくり及び情報発信に関する提言を行った。

(5) 小中学生保護者会向けの講演会等で活用できる生活習慣改善のための健康教育教材の開発

小中学生保護者やPTA等の学習会向けに養護教諭や保健師等が利用できる健康教室教材暫定版の検討を進めた。受講者の学習ニーズをふまえた完成版を仕上げるため、県教育事務所に講演機会について打診したが、年度途中の依頼であったため実現しなかった。次年度も引き続き教育事務所に協力を求めるとともに、本学公開講座等を利用して講演機会を設け、完成版の仕上げと教材配布につなげたい。

(6) 群馬県立ゆうあいピック記念温水プールにおける健康増進効果検証事業に対する取り組み

プールへの参加者を対象とし、心身への影響を心理的指標及び生理的指標を用いて検証するために、施設が実施している「生き生き健康測定」及び「健康教室」へ参加し、データ収集を行った。

ア 生き生き健康測定

測定項目：10m障害物歩行テスト、腹囲、体組成、呼吸機能

参加回数・測定人数：4回、約120人

イ 健康教室1

内 容：3大シンдрーム予防教室

測定項目：血圧・脈拍測定、心理的評価尺度の測定

参加回数・測定人数：3回、各回11～12人

ウ 健康教室 2

内容：水中ノルディックポール教室

測定項目：血圧・脈拍測定、心理的評価尺度の測定

参加回数・測定人数：3回、各回9～13人

(7) 沼田市「スマートウエルネスめまた推進事業」への協力【新規】

沼田市で2018年度から取り組んでいる「スマートウエルネスめまた推進事業」に関して、5月8日に本学にて打ち合わせ会議を行った。沼田市の担当者より、事業の概要、2018年度時点のデータのまとめ等について説明があった。今後のデータ分析・活用方法等について、沼田市担当課で検討し、本学では必要に応じて相談を受けることとなった。

(8) 「ぐんま元気エクステンションセミナー」の開催

出前なんでも講座登録時に「健康寿命延伸プログラム」を明示した講座は12テーマであり、45回開催し、参加者は2,145名であった。

3 事業成果・効果

健康寿命延伸シンポジウムは、みなかみ町において健康福祉部保健予防課との協働により開催した。シンポジウムの企画・運営に本学教員が参加した。シンポジウム実施にあたり、みなかみ町と本学教員との調整で企画を進めた。プログラム内容には健康福祉部保健予防課、本学教員、地元企業・スポーツチームが参画した。シンポジウムの参加者は約50名であった。健康寿命や町の健康問題の特徴に関する講話、減塩とだしに関する講話と体験、ゴムバンドを用いた運動など、体験型の企画も盛り込み、参加者に好評であった。終了後のアンケートでも、健康寿命延伸に対する町民の関心の高さが窺われ、「ぐんま元気の5か条」の普及に効果的であった。

元気に動こう・歩こうプロジェクトに係る実践フォーラムは、健康福祉部保健予防課との協働により本学において開催を予定し、本学は企画から運営全般を担当した。参加の申し込みは順調であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、中止することとなった。

小規模町村支援事業による榛東村に対する取り組みは、健診データの分析結果から健康課題を明らかにし、村の保健師等との協働により、広報への健診結果の掲載や慢性腎臓病（CKD）リーフレットの作成及び配布を行った。「慢性腎臓病に関する講演会」において、健診データの分析結果に関する説明を担当し、住民の健康づくりのための具体的な働きかけを実施することができた。また、榛東村との共同研究に取り組み、日本公衆衛生学会において2題の演題で発表を行うことができた。さらに、昨年度の学会発表の成果を論文としてまとめ、本学紀要の原著論文として掲載された。

館林市健康寿命延伸プラットフォーム事業への協力は、館林市健康寿命延伸プラットフォーム会議の構成員として本学から出席し、健康寿命延伸に関する提案等を行った。また、館林市健康寿命延伸プラットフォーム専門委員会の「生きがいづくり及び情報発信に関する専門委員会」の会長を本学教員が務め、生きがいづくりに関するアンケート調査の結果をふまえた具体的な方策の提言を行うことができた。

小中学生保護者会向けの講演会等で活用できる生活習慣改善のための健康教育教材の開発は、看護学部学生らによる長野県、青森県、群馬県の健康指標や生活習慣の比較資料を主軸とし、暫定版の教材を充実させた。

群馬県立ゆうあいピック記念温水プールにおける健康増進効果検証事業は、施設の利用者を対象として、心身への影響を検証するために、施設が実施している「生き生き健康測定」及び「健康教室」へ担当教員が参加し健康増進効果検証に係るデータ収集を実施することができた。

沼田市「スマートウエルネスめまた推進事業」は、沼田市担当課で調整・検討中である。

ぐんま元気エクステンションセミナーは、一般県民を対象とした講座を、県下各地で45回開催し、2,145名の参加者が得られ、健康寿命延伸の普及啓発のために効果的であった。

4 事業の課題及び改善の方向性

健康寿命延伸シンポジウムについては、「ぐんま元気の5か条」の普及啓発に向けて、今年度開催したみなかみ町以外において、引き続き健康福祉部保健予防課との協働により効果的なイベントになるように開催していくことが課題である。

元気に動こう・歩こうプロジェクトについては、次年度が県の取組みとして3年目の最終年度になる。次年度も同様に保健予防課と協働して効果的な取組みを企画、実施する。

榛東村に対する取り組みについては、提供された健診データの分析を進め、共同研究をさらに深めるとともに、今年度の研究成果を住民の健康づくりに還元することが課題である。また、榛東村から身体活動量計を活用した研究が提案されており、引き続き取り組みを進める。

館林市健康寿命延伸プラットフォーム事業への協力については、引き続き健康寿命延伸プラットフォーム会議の構成員及び専門委員会の「生きがいづくり及び情報発信に関する専門委員会」の委員として協力する。これまで各専門委員会相互の連携がやや弱い印象を拭えず、情報発信を担当する専門委員会に所属する立場として、今後一層の連携強化に取り組む。

小中学生保護者会向け健康教育教材の開発については、保護者向け講演会等で使用し、その反応を踏まえて教材を完成させる予定であったが、希望の申し出がなく講演会が開催できなかった。次年度は本学の公開講座等を利用して教材の公開と普及活動を行いたい。

群馬県立ゆうあいピック記念温水プールにおける健康増進効果検証事業については、データ収集を継続し、収集したデータの分析を進め、研究成果としてまとめる。

沼田市「スマートウエルネスめまた推進事業」については、沼田市と本学とで連携して進めていく。データを活用できるかたちにしていくことが課題である。

ぐんま元気エクステンションセミナーについては、今後も「健康寿命延伸プロジェクト」の一環として実施する。今年度は、昨年度と比較し、登録テーマ数が増え、開催回数及び参加人数が増加したため、引き続き積極的に取り組む。



ピックアップ
1

第1回 公開講座 テーマ「放射線治療ってなあに、重粒子線 と何が違う～がん治療の最前線～」

講義1「[がんは二人に一人]の今、放射線治療を知っておこう」

群馬大学重粒子医学研究センター 佐藤浩央助教

講義2「がん免疫と放射線治療 ～放射線治療と免疫療法を併用すると、1+1=3?～」

福島県立医科大学医学部 鈴木義行教授



2014年のデータから、二人に一人が、一生のうちに「がん」と診断される可能性があると言われています。がんの治療は手術、化学療法（抗がん剤）、放射線治療が中心となりますが、その中でもイメージがしづらい放射線治療について、基本情報から最新の研究を踏まえ解説していただきました。

講義1では、がん治療で重要な役割を担う放射線治療の基本原理や治療方法、全国7カ所で行われている重粒子線治療の基礎をわかりやすくお話し頂きました。

講義2では、がん治療の三本柱である放射線治療、手術、化学療法に加え、近年、もうひとつの柱となっている免疫治療に関する最新の研究についてお話し頂き、多くの参加者が興味深い様子で受講していました。

当日は、10代から70代以上と幅広い年齢の方67名に参加いただきました。

(参加者の感想)

- ・がん治療を身近に感じられ、最新の治療など知識が得られてよかった。
- ・放射線治療についての理解が深まった。
- ・がん治療は日々進化し、研究されていることが分かった。
- ・一般の参加者の立場に立って非常にわかりやすく講義をしていただいた。

ピックアップ
2

出前講座：テーマ「あなたの血管年齢はいくつ？血管と生活習慣の話」

看護学部 大澤康子 高橋美穂子

●概要：本講座「あなたの血管年齢はいくつ？血管と生活習慣の話」は、県内で生活する一般の人々を対象にした健康寿命延伸プログラムです。血液と血管を健康のバロメーターとして、血管をしなやかに保つための生活習慣（食生活・運動等）を紹介します。ご自身の身体の状態を振り返る機会に、そして、生活習慣の予防・改善に向けた動機づけや対応策の一助になることを目指しています。

●実施状況：令和元年度は県内全域にて8件実施しました。

講演内容は以下のとおりです（参加者の人数、会場等により変更する場合があります）。

- ・平均寿命と健康寿命
- ・血液と血管のはなし
- ・「ぐんま元気（GENKI）5か条」の紹介
- ・測ってみよう！血圧・血管年齢
- ・やってみよう！笑いヨガ



ぐんま元気(GENKI)の5か条	
第1条	げんき(元気)に動いて くっすり寝る (運動・休息)
第2条	えんふん(塩分)ひかえて 食事はバランスよく (食生活)
第3条	ななか(仲間)をつくって 健康づくり (社会参加・健康増進)
第4条	きんえん(金銭)めざして お金は健康に (貯蓄・健康)
第5条	いいほ(歯)を保って いつも笑顔 (歯と心・こころの健康)

(参加者の感想)

- ・健康寿命の大切さが良く理解できました。
- ・健康寿命を延ばしていくためには、生活習慣を見直し、毎日の生活の中で「ぐんま元気（GENKI）5か条」を意識して行動することで、生活習慣を変えていくことが大事だと思いました。
- ・統計データを示しながらの説明は理解しやすかったです。
- ・笑いヨガをはじめて体験しました。簡単なのに体がほぐれて、心も軽くなりました。
- ・笑いヨガ、楽しかったです。・膝が悪いので座っていても体操ができたことが良かったです。
- ・はじめて血管年齢を測っていただきました。実年齢より若くうれしかったです。
- ・講義だけでなく、実際に測定していただき、結果がすぐにわかったのは魅力的でした。

出前講座 実績一覧

※テーマ五十音順

No.	テーマ	担当講師	開催日	曜日	主催者	人数
1	赤ちゃんとのふれあい、ベビータッチングケア	教授 行田 智子 助教 生方 尚絵	9月6日	金	前橋市上川淵公民館	36
2			9月13日	金	太田市鳥之郷行政センター	20
3			1月9日	木	太田市鳥之郷行政センター	20
4	あなたの血管年齢はいくつ？血管と生活習慣の話	助教 大澤 康子 助教 高橋美穂子	6月6日	木	心臓血管センター ハートクラブ (事務局 医事課)	15
5			7月22日	月	群馬県NOSAI女性の会	70
6			8月27日	火	箕輪城長寿センター	25
7			8月30日	金	生涯学習館林市民の会	30
8			9月18日	水	建設業労働災害防止協会群馬県支部富岡分会	230
9			10月2日	水	社会福祉法人はーとわーく	10
10			11月8日	金	太田市綿打行政センター	70
11			11月18日	月	邑楽館林農村女性ネットワーク	60
12			5月8日	水	群馬県総合教育センター	28
13			5月17日	金	群馬県栄養士会 沼田支部	20
14	うっかりミスはなぜ起きる	准教授 五十嵐 博 教授 瀬川 篤記	5月24日	金	藤岡地区農業指導センター	40
15			5月28日	火	冬木工業(株)安全協力会	140
16			6月11日	火	太田市強戸行政センター	60
17			6月13日	木	伊勢崎市あずま公民館	25
18			6月18日	火	群馬県立太田産業技術専門校	131
19			6月20日	木	東邦亜鉛労働組合安中支部	20
20			6月25日	火	太田市休泊行政センター	60
21			6月28日	金	群馬県立前橋産業技術専門校	130
22			7月11日	木	特別養護老人ホームあさひ	25
23			7月16日	火	特別養護老人ホームうすいの里	30
24			7月24日	水	特別養護老人ホームほたる	15
25			8月28日	水	藤岡保健福祉事務所	80
26			9月2日	月	中央労働金庫伊勢崎支店	70
27			9月26日	木	高崎市新町公民館	30
28			10月1日	火	大泉労働基準協会	30
29			10月19日	土	ヨシダ産業株式会社	20
30			10月23日	水	金山クラブ	30
31			10月24日	木	社会福祉法人 仁代会 特別養護老人ホーム八瀬川の里	30
32			10月25日	金	日本光電富岡(株)	100
33			10月28日	月	桐生市社会福祉協議会新里支所	50
34			11月6日	水	甘楽富岡農業協同組合	150
35			11月7日	木	県立高等学校事務職員会 多野甘楽安中支部	15
36			11月22日	金	群馬県総合教育センター	15
37			11月22日	金	(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構群馬支部	40
38			11月25日	月	群馬県理容生活衛生同業組合青年女性部	45
39			11月29日	金	躍升建設株式会社	50
40			1月24日	金	桐生市社会福祉協議会東デサービス	20
41			1月31日	金	渋川市自治会連合会	130
42			2月4日	火	公益財団 高崎財団	30
43			2月5日	水	東吾妻町役場	40
44			2月6日	木	東吾妻町役場	40
45	「美味しく食べる」を支える健口体操を学ぼう	講師 樋口 友紀 講師 福島 昌子	5月9日	木	複合型サービスはなき	25
46	家庭で活かす看護技術「身体特性(ボディメカニクス)を活かして看護する」	講師 佐藤 正樹	8月22日	木	桐生市社会福祉協議会	28
47	体に痛みのあるときの生活の工夫	教授 高井ゆかり	7月12日	金	桐生市立中央公民館	200
48			7月23日	火	白沢町燦々会	50
49	グラスハープを題材に考えるー振動、共鳴、音ってなあに？ー	教授 青木 武生	8月8日	木	前橋市立桃木小学校ビバビバクラブ	40
50	原発事故と放射線の影響	准教授 杉野 雅人	4月23日	火	高崎経済大学附属高等学校	37
51	高齢者に多い入浴の事故	准教授 大川美千代 助教 高橋 美穂子 講師 戸谷 幸佳	6月21日	金	榛東村南部コミュニティセンター	21
52			11月25日	月	富岡市小野公民館	18
53			11月28日	木	沼田市老人クラブ連合会	70
54			11月29日	金	粕川公民館	40

No.	テーマ	担当講師	開催日	曜日	主催者	人数
55	子どもの事故防止	教授 横山 京子 講師 益子 直紀 講師 富永 明子 助教 久保 仁美	7月11日	木	大泉町教育委員会	30
56			8月6日	火	太田市生涯学習課	20
57			9月5日	木	伊勢崎市ファミリー・サポート・センター	15
58			10月30日	水	玉村町ファミリー・サポート・センター	15
59			2月5日	水	しぶかわファミリー・サポート・センター	20
60	CT・MRI 検査	准教授 林 則夫	5月15日	水	箕輪城長寿センター	25
61	「女性のからだところの変化&対処を知る」 ー女性がイキイキと暮らすためにー	講師 林 はるみ	9月10日	火	太田市綿打行政センター	20
62	生活習慣病の予防と対応策	教授 廣瀬規代美 講師 浅見 優子	5月16日	木	伊勢崎税務署総務課	60
63			5月23日	木	館林税務署	100
64			7月16日	火	みどり市東公民館	35
65			9月11日	水	カウンセリング研究会2000	15
66			9月12日	木	渋川市ボランティア連絡協議会	80
67			9月13日	金	群馬県長寿づくり財団	40
68			12月9日	月	桐生みどり農村女性会議	30
69			8月30日	金	生涯学習館林市民の会	30
70	生物の世界：顕微鏡でどんなものが見える	教授 青木 武生	7月24日	水	前橋市立桃木小学校ビバビクラブ	40
71			8月16日	金	前橋市上川淵公民館	30
72			2月1日	土	NPO法人 HOME	20
73	「生理（月経）」と上手に付き合おう	助教（助産師）生方 尚絵	8月23日	金	伊勢崎佐波地区高等学校・中等教育学校・特別支援学校養護教諭部会	11
74			9月19日	木	群馬県総合教育センター	15
75	畳の上で逝きたいー訪問看護師ができることー	准教授 清水 裕子	10月30日	水	桐生市社会福祉協議会	28
76			2月20日	木	特別養護老人ホーム八瀬川の里	20
77			12月10日	火	伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校	140
78	たばこと健康	講師 益子 直紀 講師 橋本 晴美	9月3日	火	太陽誘電エナジーデバイス（株）	20
79	手・足・口を使った頭の体操で脳を活性化しよう！	講師 樋口 友紀 講師 福島 昌子	4月24日	水	みどり市大間々公民館	30
80			6月20日	木	館林市クローバー荘地域包括支援センター	40
81			11月27日	水	東箱田後家町長寿会	15
82	できもの腫れもの ～良性？悪性？？？～	教授 瀬川 篤記	4月23日	火	甘楽町食生活改善推進協議会	20
83			10月9日	水	カウンセリング研究会2000	15
84	転倒予防にむけた身体づくり「転倒予防体操を学ぼう」	講師 樋口 友紀 講師 福島 昌子	6月6日	木	板倉町役場健康介護課介護高齢係	40
85			8月19日	月	小桑原げんき塾	25
86			8月26日	月	明和町ふれあいセンターポプラ	20
87			12月23日	月	生涯学習館林市民の会	30
88	「はたらく人のストレスーからだの声を聴くー」	講師 垣上 正裕	4月18日	木	社会福祉法人 仁人会	35
89			6月21日	金	高崎市立下里見小学校PTA	200
90			7月3日	水	群馬森林管理署	31
91			7月9日	火	桐生市社会福祉協議会	28
92			10月29日	火	一般社団法人前橋労働基準協会	70
93			12月9日	月	サンワ株式会社 群馬工場	20
94			12月9日	月	サンワ株式会社 群馬工場	20
95			12月20日	金	(独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構群馬支部	40
96			1月25日	土	群馬県庁臨床検査技師会	50
97			1月29日	水	群馬県庁勤務薬剤師会学術部会	50
98			2月4日	火	園芸資材メーカー連絡協議会	40
99			2月6日	木	嬭恋村農業協同組合 職員会	80
100	訪問看護って何？ー病気があっても家で暮らすにはー	准教授 清水 裕子	12月10日	火	伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校	140
101	身近な放射線	助教 川村 拓	12月17日	火	上野村立上野中学校	9
102	～ゆっくり、やさしく、ていねいに～ タッピングタッチを体験してみよう	講師 中野あずさ	6月18日	火	伊勢崎市あずま公民館	25
103			7月12日	金	大泉町地域包括支援センター	20
104			8月8日	木	利根沼田養護教諭会	45
105			9月20日	金	太田市綿打行政センター	15
106			9月20日	金	榛東村南部コミュニティセンター	21
107			11月12日	火	吾妻郡小中学校事務研究会	24
108			1月12日	日	あんなか兄弟姉妹会ケセラセラ	15
109	安楽死（よい死）	准教授 森川 功	5月27日	月	新島学園高等学校	20



法人化で迎える令和の時代の地域連携センター

群馬県立県民健康科学大学 学長 高田邦昭

この5月から新元号の令和の時代が始まりました。振り返って見ると、平成の時代は、平成5年の医療短期大学開学から始まり、平成17年の県民健康科学大学開学とその後の大学院設置、そして平成31年3月の大学院博士後期課程完成まで、本学にとってはまさに高度成長の時代でした。その中で、平成24年には、地域・社会貢献の窓口として、地域連携センターが設置されています。

令和の時代は、平成の後半から顕在化した高齢化、情報化（ICTの発達）などが急速に進展する時代とも言えます。この様な状況を見据え、平成30年4月に、本学は公立大学法人化され、変化の激しい時代に対応していく枠組みが出来ました。法人は、県から示された中期目標の達成に向けて、中期計画や年度計画を作成して運営されます。そして毎年の運営実績は、独立した外部の評価委員会によって評価されます。これらはすべて法人へとフィードバックされるとともに社会に公表され、透明性を高めた運営がなされます。この評価結果に基づき、PDCAサイクルを着実に回すことで、とかく前年度踏襲のマンネリ化しがちな運営を活性化させるわけです。

地域貢献事業については、中期計画策定段階で評価委員の方から強い要望があった看護師の特定行為研修を開始します。現在、地域連携センター事業の柱の一つとして、来年度からの実施に向けて準備作業が進行中です。

このように、法人化された本学は、「県民」のために「健康科学」で貢献する大学として、効果的かつ効率的に運営されます。この中で、地域連携センターの果たす役割はますます大きくなります。皆様のますますのご支援をお願いいたします。



公開講座

【テーマ】 放射線治療ってなあに、重粒子線治療と何がちがう ～がん治療の最前線～

【日 時】 令和元年9月21日 13時開始予定

【講 師】 鈴木 義行 教授 福島医科大学腫瘍放射線講座教授（群馬大学出身）

原 孝光 教授 本学 診療放射線学部

放射線診断核医学から若手教員

【申込方法及び詳細】 詳しくは本学のホームページをご覧ください



【平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞 開発部門を受賞して】

診療放射線学部 准教授 高橋哲彦



この賞は、日本の社会経済、国民生活の発展向上等に寄与し実際に利活用されている画期的な研究開発や発明を行った者が対象で、受賞内容は「高画質オープン型MRI装置の開発」です。

「MRI」は、脳や腹部など、体の中を画像で見ることができ、今の医療に欠かせない検査です。「オープン型MRI」は、MRIの検査を、狭いトンネル空間に入ることがなくでき、患者さんの圧迫感が小さい特長があります。また、スポーツ医学など様々な姿勢で検査するときにも使えます。

受賞メンバーらは、オープン型MRIの設計の礎となる、微弱信号を検出するRFコイルなどの高精度なコンピュータシミュレーション技術を開発しました。この技術を駆使して、オープン型MRIは、画質と性能が大きく向上し発展しました。現在、オープン型MRIは群馬県内で約20台、北関東4県では約150台が稼働しています。

今回の受賞は大変うれしいです。赤城山の雄大な稜線や裾野のごとく、先進医療が多くの人々の身近にあって欲しいという気持ちで、これからも医療技術の発展に尽くしてまいります。

【診療放射線学研究科の学生が学会賞を受賞】

診療放射線学研究科診療放射線学専攻 博士後期課程1年 津野隼人

平成最後の4月に開催された第75回日本放射線技術学会総会学術大会において、Bronze Award賞を受賞しました。私の研究は最新の画像誘導放射線治療において、患者さんの治療位置合わせのために用いたX線による被ばく線量の計測方法を開発し、その不確かさを評価したものです。社会人院生の私は、日々の臨床業務の中で感じた“何故だろう？”という素朴な疑問を研究テーマへ昇華しています。これからも、患者さんに有益な研究を群馬の地から全国、そして世界へ発信できるように研鑽して行きます。ご支援をよろしくお願い致します。



御祝いの
ことば

社会人大学院生として日常臨床に関連した研究テーマを設定し、その研究成果が認められて良かったですね。おめでとうございます！ 指導教授 佐々木浩二

お知らせ

オープンキャンパスを開催します！

県民健康科学大学では、高校生、受験生とご家族の皆さまを主な対象として、オープンキャンパスを開催します。職種の内容やカリキュラム、入試に関する案内に加え、模擬授業や模擬演習の実施、在校生と教員による相談コーナーもあります。是非皆さまの参加をお待ちしています。

【日 時】 2019年8月9日（金）・10日（土）

【会場】 県民健康科学大学

※詳細は、本学ホームページでお知らせします。



発行：群馬県立県民健康科学大学地域連携センター 〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1
TEL: 027-235-1211 FAX: 027-235-2501 URL: <http://www.gchs.ac.jp/>



地域連携センター新規事業 ～看護師特定行為研修への取り組み～

地域連携センター長 齋藤 基

本学の地域連携センターは、県立の保健医療系大学として、県民の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材の育成を目指しています。

我が国は、人口の高齢化が進展し、2055年には後期高齢者の割合が25%を超えることが予測され、今後の在宅医療等の一層の推進を図ることが求められています。本県は山間部を中心に高齢化が進み、在宅医療等に対するニーズが高い水準で維持されることが考えられます。在宅医療等の提供においては、個別に熟練した看護師のみでは不足しているため、医師又は歯科医師の判断を待たずに手順書により一定の診察の補助を行う看護師を養成し、確保していく必要があります。厚生労働省では、看護師が手順書に基づき実施する行為を特定し、計画的に養成していくことを目的として、看護師特定行為研修制度を創設しました。

そこで、本学においては、県内の在宅医療等に対するニーズに対応するため、看護師特定行為研修を地域連携センター事業として位置づけ、研修事業に取り組むことといたしました。現在、2020年4月の開講を目指して準備を進めているところです。

看護師の皆様の受講を心からお待ちしております。



本学で予定している看護師特定行為研修の概要

【 研修で取り組む特定行為（2区分・3特定行為） 】

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| ①呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連 | ②栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 |
| ・気管カニューレの交換 | ・持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整 |
| | ・脱水症状に対する輸液による補正 |

- | | |
|----------|--|
| 【 定 員 】 | 5名程度 |
| 【 受講資格 】 | 実務経験5年以上の看護師 |
| 【 研修内容 】 | 共通科目（特定行為に共通して学ぶ事項）及び区分別科目（特定行為ごとに学ぶ事項）の履修 |
| 【 研修方法 】 | 〔講義〕eラーニングを活用 〔演習・実習〕本学及び病院で実施 |
| 【 研修期間 】 | 1年間 |
| 【 受講方法 】 | 勤務しながら受講が可能 |

活動報告

公開講座 テーマ「放射線治療ってなかに、重粒子線治療と何がちがう ～がん治療の最前線～」

講義1. 「がんは二人に一人」の今、放射線治療を知っておこう

講師：群馬大学重粒子医学研究センター 助教 佐藤 浩央 先生

講義2. がん免疫と放射線治療 ～放射線治療と免疫療法を併用すると、1+1=3?～

講師：福島県立医科大学医学部 教授 鈴木 義行 先生

9月21日(土)、本学多目的ホールにて、令和元年度第1回公開講座が開催されました。県内各地から非常に多くの方々にご出席いただき、重粒子線治療や免疫療法について学ぶ機会になりました。

第2回公開講座は、「手・足・口を使った頭の体操で脳を活性化しよう!」と題して、令和2年3月に開催する予定です。奮ってのご参加をお待ちしております。



オープンキャンパス

8月9日・10日の2日間、本学ではオープンキャンパスを開催しました。

猛暑の中、1,840名という多くの皆様にご来場いただきました。

模擬授業・演習の体験や、在学生によるキャンパスツアーに参加していただき、本学への理解を深めていただく良い機会となりました。



Kenkadai A to Z

■ DANBEE CIRCLE：だんべえサークルの活動報告

7月4日(木)から4日間、前橋七夕まつりが開催されました。

7月6日(土)、前橋市の中央イベント広場において、本学のだんべえサークルに所属する学生14名がだんべえ踊りを披露しました。大学名の入ったはっぴを着用し、10分間出演しました。

小さな子供たちからご年配の方々まで、幅広い年代の団体が集まり、だんべえ踊りや様々なジャンルのダンスを披露し合い、大変盛り上がりを見せたイベントとなりました。地域の皆様とふれあい、有意義な時間を過ごすことができました。



お知らせ

◆ ぐんま県民力レッジ連携講座 公開授業「人間の発達と健康」概論

- 【開講日】 10月～1月 月曜日 14:40～16:10 *1日単位の参加も可能です。
(一部日程に変則箇所がございます。詳細については本学ホームページ等をご覧ください。)
- 【対象者・定員】 一般県民 1講義10名(先着順)
- 【受講料】 無料
- 【開催場所】 本学
- 【申込方法】 本学ホームページまたは電話、ファックスよりお申し込みください。

桃の木祭(学園祭)を開催します!

- 【日時】 令和元年11月9日(土)・10日(日) 【開催場所】 群馬県立県民健康科学大学
※詳細については、本学ホームページ等でお知らせ致します。

発行:群馬県立県民健康科学大学地域連携センター
TEL:027-235-1211 FAX:027-235-2501

〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1
URL: <http://www.gchs.ac.jp/>



「地域貢献」と「行政との協働」

群馬県健康福祉部長 武藤幸夫

群馬県立県民健康科学大学は、平成17年度の開学以来、看護師、保健師及び診療放射線技師を数多く育成し、地域の保健医療機関や行政機関等へ輩出されています。また、平成24年度には地域連携センターを設置し、大学が所有する知的財産や研究成果などを、県民や保健医療従事者、行政などに還元し、地域の医療水準や県民の健康水準の向上を支えるなど、大学の第3の機能である「地域貢献」に努めてこられました。

昨年度には公立大学法人化され、これまで以上に自主的・自律的な運営が可能となったことから、地域に開かれた教育研究の拠点として、群馬県はもとより社会全体の発展に寄与することが期待されています。

さて、我が国は、超高齢社会に突入し、本格的な人口減少社会が到来しました。疾病構造の変化や医療の高度化の進展など、大きな変化に直面しています。本県においても、65歳以上の人口割合が30%に迫る中、持続可能な社会保障制度の確立は喫緊の課題であり、「健康寿命の延伸」は県政の重要課題です。

県では、全ての県民が心身ともに健康で質の高い生活を送ることを目指した「元気県ぐんま」実現のため、「ぐんま元気(GENKI)の5か条」を制定し、実践力を高めるための「元気に“動こう、歩こう”プロジェクト」を始動するなど、「健康寿命延伸県民運動」を推進しています。また、受動喫煙防止対策を積極的に進めるとともに、食育の推進、疾病対策、がん検診受診率の向上、歯科口腔保健対策、フレイル予防など、「活力ある健康長寿社会づくり」への取組を総合的に推進しているところです。こうした健康づくり対策の展開に当たっては、科学的根拠に基づいた取組が重要であり、保健医療のビッグデータを活用した課題分析や分析結果に応じた実践プログラムの開発・実践、データに基づく評価を通じた対策を進めていくためにも、県民健康科学大学との協働が不可欠だと考えています。

地域から信頼され、魅力ある大学であり続けるとともに群馬の未来を創生していくため、医療の高度化・専門化に伴う県民の医療に対するニーズの多様化への対応や、人々の生涯にわたる健康水準の維持・向上など、教育・研究の更なる充実と、「地域貢献」及び「行政との協働」の、より一層の取組が図られることを期待しております。



第2回 公開講座

【テーマ】手・足・口を使った頭の体操で脳を活性化しよう！

【日時】令和2年3月14日(土)13時～15時10分(12時30分受付開始)

【講師】群馬県立県民健康科学大学 講師 樋口 友紀 講師 福島 昌子

【申込方法及び詳細】詳しくは本学のホームページをご覧ください



活動紹介：地域包括ケアを支えるナースのためのスキルアップセミナー

「看護師特定行為研修～ワンステップアップの資格を目指すための知識～」

地域連携センター長 齋藤 基

2020年度に開講予定の看護師特定行為研修事業の一環として、群馬県慢性期医療協会と本学の主催によるセミナーが9月24日に本学の第21講義室で開催されました。

情報提供では、群馬県医務課の永井佳美看護係長から「看護師特定行為研修に対する県の取り組み」、本学看護学部の飯田苗恵准教授から「看護師特定行為研修って何？」、群馬県看護協会の荻原京子会長から「日本看護協会が考えるこれからの資格のあり方」のテーマで講演をいただきました。シンポジウムでは「活躍できる特定看護師」をテーマとして、内田病院の田中志子理事長がコーディネーターを務め、大誠会グループの大嶋玲子看護師、美原記念病院の高橋陽子看護部長から話題提供をいただき、意見交換を行いました。参加者は、病院等の看護管理者を中心に100名を超え、看護師特定行為研修に対する関心の高さが窺われました。



学生の活動報告

令和元年度高麗大学校短期海外研修に参加して

診療放射線学部 小倉 敏裕

日韓の関係が良くない状態ですが、何回かの訪韓により、韓国の方のやさしさ、親切さを知っており、また、毎回熱烈的な歓迎を受けていたため、何の心配もなく高麗大学校短期海外研修に行ってきたことができました。学生さんがニュースを見ただけでは感じることはできない世界を知り、超名門大学の先生方、学生さんと共に学び、ともに交流できたことは貴重な体験であったと思います。



Kenkadai A to Z



■MOMONOKI：大学の横を流れる 桃ノ木川

大学のすぐ横を流れる桃ノ木川。

赤城山を源流とする自然河川ではなく、実は利根川を分流する農業用水路です。川の長さはたったの15kmですが、川岸にはサイクリングロードも整備され、赤城山を背景に四季折々の風景が楽しめます。

本学の学生も春にはバーベキューをし、花を植え、夏には川岸の草むしりをして桃ノ木川に親しんでいます。

お知らせ

共同研究・若手研究発表会

看護学部および診療放射線学部の教員による研究成果の発表会を開催します。皆様のご参加をお待ちしております。

【日 程】令和2年3月12日(木)

【対象者】群馬県内で従事する保健医療関係職者

※詳細は、本学ホームページでお知らせします。

発行：群馬県立県民健康科学大学地域連携センター 〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1
TEL: 027-235-1211 FAX: 027-235-2501 URL: <http://www.gchs.ac.jp/>



本学に期待すること

公益社団法人 群馬県看護協会 会長 荻原 京子

群馬県立県民健康科学大学におかれましては、当協会の研修教育等の事業に対して、多大なご理解とご指導をいただき、深く感謝を申し上げます。

また、教育研究を推進し、群馬県の看護職や放射線技師の養成、大学院教育による医療人材の育成と質の向上に多大なる貢献をされておられますことに、あらためて敬意を表します。

少子超高齢多死社会が加速する中、誰もが住み慣れた地域で安心して健やかに生活できることを願っております。医療提供体制が地域完結型に転換してきている中で、地域の人々の暮らしと生命を支えていくことが私たち看護職に求められており、そのために、看護の役割拡大を進め、医療職のタスクシフトやタスクシェアに積極的に取り組むことが検討されております。

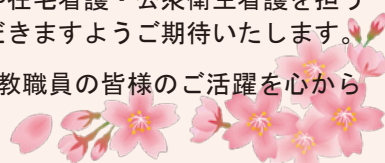


貴大学では、2020年度に、念願の特定行為研修の開講が予定されております。ここでの特定行為研修は、呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連と栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連であり、研修習得した看護師には、特に在宅医療分野での活躍が期待されており、社会のニーズに応え、安全に在宅療養を支える大きな力となります。更に認定看護師が特定行為研修を受講することにより、より専門的な広い視点に立った医療・看護ケアを提供できるものと考えます。

今年は、ナース生誕200年であり、この機会を捉えて、看護協会と看護連盟は世界的キャンペーン「Nursing now～看護の力で健康な社会を！」に参加しており、継続して働き続けることができるように看護職の職場環境改善への支援や研修等による資質向上に取り組んでおります。

貴大学におかれましては、大学の叡智を積極的に地域の医療関係職種に還元していただき、地域包括ケアシステムの構築・推進、さらに、認知症ケアや在宅看護・公衆衛生看護を担う人材育成、健康寿命延伸への取り組み等へ支援をしていただきますようお願いいたします。

結びに、群馬県立県民健康科学大学のますますの発展と教職員の皆様のご活躍を心からご祈念申し上げます。



事業報告：健康寿命延伸プロジェクト

【健康寿命延伸シンポジウム in みなかみ】

看護学部 教授 宮崎 有紀子

「元気県ぐんま」の実現をめざす取り組みのひとつが「健康寿命延伸シンポジウム」です。令和元年度は11月25日にみなかみ町にて「健康寿命延伸シンポジウム in みなかみ～健康づくり教室番外編」を開催しました。第1部では「ぐんま元気(GENKI)の5か条」の紹介、町の健康寿命や健康問題の特徴に関する講話、減塩とだしに関する講話と体験を行いました。第2部ではゴムバンドを使った運動を行い、楽しく充実した時間を過ごすことができました。

健康寿命の延伸には、日ごろの生活習慣や、社会参加・仲間づくりがとても大切です。

みなさんもぐんま元気の5か条を実践していきましょう。



ぐんま元気(GENKI)の5か条

- 第1条 G げんき(元気)に動いて ぐっすり睡眠 (運動・休養)
- 第2条 E えんぶん(塩分)ひかえて 食事はバランスよく (食生活)
- 第3条 N なかま(仲間)をつくって 健康づくり (社会参加・健(検)診)
- 第4条 K きんえん(禁煙)めざして お酒は適度に (喫煙・飲酒)
- 第5条 I いいは(歯)を保って いつも笑顔 (歯と口・こころの健康)

参加者の声(アンケートより)

- ・減塩の大切さがわかりました。健康は自らつくっていくことがわかりました。
- ・体を動かして楽しかった。汗をかいてよい気分でした。
- ・人に会ったり、楽しい話を聞いたり元気になります。
- ・自分の足でどこでも行って楽しみたい。健康長寿への意欲向上につながった。

榛東村 慢性腎臓病に関する講演会

【健康寿命を延ばそう～健診データからみえてくること～】

看護学部 助教 大澤 康子

本学は、榛東村と2017年3月「健康づくり推進に関する協定」を締結し、榛東村をモデル地区として、健康寿命の延伸に係る諸事業に連携して取り組んでいます。榛東村は、慢性腎臓病の発症予防・発症後の重症化防止を目指し、その一環として、慢性腎臓病に関する講演会を12月20日に榛東村保健相談センターで開催しました。内容は、群馬大学医学部附属病院の廣村桂樹教授から、「増えています!! 慢性腎臓病」のテーマで、腎臓の働きや慢性腎臓病等に関する講演がありました。本学からは、「健康寿命を延ばそう～健診データからみえてくること～」のテーマで、榛東村の健康診査結果の分析から具体的な生活習慣を取り上げて説明しました。

当日の参加者は約50名であり、腎臓の働きをはじめ、大切な腎臓を守る方法について理解を深める機会となりました。また、健診結果票から自身の健康状態を再確認するとともに、積極的に質問も出され、参加者の関心の高さが窺えました。



お知らせ

◆2020年度 無料講座・無料セミナーのご案内

「**出前講座**」健康や医療従事者の業務に役立つ様々な講座を用意しています。

「**公開授業**」親しみやすい科目で、学生以外の方も受講できます。

「**看護研究セミナー**」看護研究の実施に向けた基礎的知識習得のためのセミナーです。

※詳細は、本学ホームページをご覧ください。URL: <http://www.gchs.ac.jp/>



発行：群馬県立県民健康科学大学地域連携センター 〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1

TEL: 027-235-1211 FAX: 027-235-2501 URL: <https://www.gchs.ac.jp/>

トピックス

「地域包括ケアを支えるナースのための
スキルアップセミナー」

高齢化の進展に伴い、今後、在宅医療の一層の充実・推進を図ることが求められている中、本学では、地域包括ケアの一翼を担うために特定行為を実施できる看護師を育成する研修機関として指定を受けるべく準備を進めました。

2020年4月からの研修開始に向け、特定行為研修について広く知っていただくために群馬県慢性期医療協会と本学の共同主催により、看護師特定行為研修～ワンステップアップの資格を目指すための知識～をテーマとして、9月24日（火）に県内の看護師等を対象に「地域包括ケアを支えるナースのためのスキルアップセミナー」を開催しました。

第1部 情報提供では、群馬県健康福祉部医務課 永井佳美看護係長による「看護師特定行為研修に対する県の取り組み」、本学 飯田苗恵准教授による「看護師特定行為研修って何?」、群馬県看護協会 荻原京子会長による「日本看護協会が考えるこれからの資格のあり方」についてご講演頂きました。

その後、第2部 シンポジウムでは、「活躍できる特定看護師」をテーマとして大誠会グループ 大嶋玲子看護師長と美原記念病院 高橋陽子看護部長による話題提供の後、内田病院 田中志子理事長がコーディネーターを勤め、意見交換を行いました。

当日は107名が参加し、看護師特定行為研修に対する関心の高さが窺われました。



【参加者の声（アンケートより）】

（特定行為研修の受講）

- ・ 特定行為研修受講について検討していたが、今回のセミナーで研修の流れや実習について詳しく聞いたので役に立った。
- ・ 今後、特定行為研修の参加を予定しているため、さらに理解を深める機会となった。

（特定行為研修後の看護実践）

- ・ 特定行為看護師の育成が、医師との連携や患者満足度の向上、看護の質の向上につながると思った。また、患者の状態に応じて早急に対処できるようになると思った。
- ・ 特定行為研修を受講後、終了した看護師が一人でも存在することで病院の質の向上、タイムリーな患者への処置につながると感じます。自院でも受講生を早目に出したいと考えています。

（人材育成）

- ・ 現場で活動している看護師の声を聴き、スタッフナースをどのように研修に出せるか本気で考えるようになった。
- ・ 区分はいつでも自施設に必要な特定行為看護師が必要である。認定看護師の特定行為研修をどのように支援をすればよいか検討しなければと考えた。

Ⅱ

その他の
地域貢献活動

学会活動

【学長】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
学長	高田 邦昭	生命をはぐむ糖と水の輸送を顕微鏡でみる	日本顕微鏡学会第62回シンポジウム (市民公開講座)	令和元年11月30日	埼玉会館、浦和	学会員、市民	100

【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
1 教授	行田 智子	日本看護研究学会専任査読委員	日本看護研究学会	令和元年度	-	日本看護研究学会員	-
2 教授	横山 京子	日本看護教育学会評議員	日本看護教育学会	令和元年度	-	-	-
3		日本看護科学学会代議員	日本看護科学学会	令和元年度	-	-	-
4		日本看護教育学学会評議員	日本看護教育学学会	令和元年度	-	-	-
5		日本看護教育学学会第29回学術集会 企画委員、実行委員	日本看護教育学学会	令和元年8月24日	前橋	看護職者	約300名
6 教授	山下 暢子	日本看護教育学学会理事長	日本看護教育学学会	令和元年度	-	-	-
7		日本看護教育学学会評議員	日本看護教育学学会	令和元年度	-	-	-
8		日本看護教育学学会専任査読者	日本看護教育学学会	令和元年度	-	-	-
9		日本看護教育学学会第29回学術集会企画・ 実行委員	日本看護教育学学会	令和元年8月24日	前橋	看護職者	約300名
10 教授	狩野 太郎	群馬県がん看護研究会 地域貢献活動担当理事	群馬県がん看護研究会	令和元年度	-	看護師	-
11		日本がん看護学会 査読委員	日本がん看護学会	令和元年度	-	看護師	-
12		第34回日本がん看護学会学術集会・座長	日本がん看護学会	令和2年2月22日	東京	看護師	約20名
13		第34回日本がん看護学会学術集会・ナース ングサイエンスカフェ、企画運営、座長	日本がん看護学会	令和2年2月22日	東京	高校生、保護者	約90名
14		第34回日本がん看護学会学術集会・市民公 開講座、企画運営、座長	日本がん看護学会	令和2年2月23日	東京	看護師、市民	約90名
15 教授	高井ゆかり	編集委員会委員 研究論文表彰選考委員会	日本老年看護学会	令和元年度	-	-	-
16		代議員、教育委員会委員	日本運動器疼痛学会	令和元年度	-	-	-
17		評議員	日本慢性疼痛学会	令和元年度	-	-	-
18		代議員 国際活動推進委員会委員 和文誌専任査読委員	日本看護科学学会	令和元年度	-	-	-

19	教授	廣瀬規代美	第39回日本看護科学学会学術集会口演座長	日本看護科学学会	令和元年11月30日	石川	学会員	-
20			日本看護科学学会 代議員	日本看護科学学会	令和元年度	東京	学会員	-
21			日本がん看護学会 代議員	日本がん看護学会	令和元年度	東京	学会員	-
22			日本がん看護学会 査読委員	日本がん看護学会	令和元年度	東京	学会員	-
23			第14回日本慢性看護学会学術集会企画委員	日本慢性看護学会	令和元年度	群馬	学会員	-
24	教授	大澤真奈美	日本地域看護学会 代議員	日本地域看護学会	令和元年度	-	-	-
25			日本地域看護学会誌 査読委員	日本地域看護学会	令和元年度	-	-	-
26			日本産業衛生学会 代議員	日本産業衛生学会				
27			日本公衆衛生看護学会誌 査読委員	日本公衆衛生看護学会	令和元年度	-	-	-
28			日本ルーラルナースング学会 査読委員	日本ルーラルナースング学会	令和元年度	-	-	-
29			千葉看護学会会誌 専任査読者	千葉看護学会	令和元年度	-	-	-
30	准教授	清水 裕子	一般社団法人 日本がん看護学会代議員	一般社団法人 日本がん看護学会	令和元年度	-	-	-
31			一般社団法人 日本がん看護学会査読委員	一般社団法人 日本がん看護学会	令和元年度	-	-	-
32			第34回日本がん看護学会学術集会座長	一般社団法人 日本がん看護学会	令和2年2月22日	東京	看護職者	-
33	准教授	服部 美香	日本看護教育学会 評議員	日本看護教育学会	令和元年度	-	-	-
34			日本看護教育学会 編集委員	日本看護教育学会	令和元年度	-	-	-
35			日本看護教育学会第29回学術集会・学術集会会長 テーマ「実践と研究の循環とその成果」	日本看護教育学会	令和元年7月～令和2年3月	前橋	看護職者	316名
36	准教授	大川美千代	第33回日本看護歴史学会学術集会 査読者	日本看護歴史学会	令和元年度	東京	-	-
37			第33回日本看護歴史学会学術集会 座長	日本看護歴史学会	令和元年度	東京	大学教員、看護師、保健師、助産師	約250名
38	准教授	上山 真美	日本老年泌尿器科学会評議員	日本老年泌尿器科学会	令和元年度	北海道	-	-
39			日本プライマリ・ケア連合学会編集委員	日本プライマリ・ケア連合学会	令和元年度	-	-	-
40			日本看護リハビリテーション学会第31回学術大会 査読委員	日本看護リハビリテーション学会	令和元年11月9日、10日	東京	大学教員、看護師等	-
41			日本創傷・オストミー・失禁管理学会 査読委員	日本創傷・オストミー・失禁管理学会	令和元年度	-	-	-
42			高齢者排尿誘導ガイドライン作成チームメンバー	日本看護科学学会	令和元年12月1日～	-	-	-
43	講師	福島 昌子	第3回日本エンドオブライフケア学会学術集会 実行委員	日本エンドオブライフケア学会	令和元年度 9月14～15日	名古屋	医療関係職者・一般市民	約500名
44	講師	金谷 悦子	日本看護教育学会 理事	日本看護教育学会	令和元年度	-	-	-
45			日本看護教育学会 編集委員	日本看護教育学会	令和元年度	-	-	-

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加名数
46	講師 金谷 悦子	看護教育学研究 査読者	日本看護教育学学会	令和元年度	—	—	—
47		日本看護教育学学会第29回学術集会 企画委員	日本看護教育学学会	令和元年度	前橋市	看護職者	約300名
48		日本看護教育学学会第30回学術集会 演題 批評者	日本看護教育学学会	令和元年度	前橋市	看護職者	約301名
49	講師 富永 明子	日本看護教育学学会第29回学術集会 企画委員・実行委員	日本看護教育学学会	令和元年8月24日	群馬	看護職者	約300名
50	講師 高橋 裕子	日本看護教育学学会 第29回学術集会 企 画委員・実行委員	日本看護教育学学会	令和元年8月24日(土)	群馬	看護職者	約300名
51		日本看護教育学学会 編集委員	日本看護教育学学会	令和元年度	千葉大学	看護職者	—
52		群馬思春期研究会 理事	群馬思春期研究会	令和元年度	群馬	看護職者・医師 看護教諭	—
53	講師 河内 直美	第23回群馬県看護学会	群馬県看護協会	令和元年度	群馬	看護職者	約700名
54		日本看護教育学学会第29回学術集会	日本看護教育学学会	令和元年度	群馬	看護職者	約300名
55	講師 垣上 正裕	日本看護教育学学会大第29回学術集会 企画委員・実行委員	日本看護教育学学会	令和元年8月24日	群馬	看護職者	約300名

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加名数
1	教授 小倉 敏裕	第18,19回消化管CT技術研究会企画	消化管CT技術研究会	平成31年4月11日	横浜	大学教員、放射 線技師	10名
2		医用画像情報学会 (MII) 令和元年度年次 (第184回) 大会準備運営	医用画像情報学会	令和元年6月1日	群馬	大学教員、医師、 放射線技師	100名
3		RPTE-D-19 査読	Radiological Physics and Technology 誌	令和元年度	—	—	—
4		日本消化管CT技術学会編集委員会立ち上げ 準備	日本消化管CT技術学会	令和元年7月13日	東京	大学教員、放射 線技師	5名
5		日本消化管CT技術学会 令和元年度第1回 理事会	日本消化管CT技術学会	令和元年7月13日	東京	大学教員、医師、 放射線技師	10名
6		医用画像情報学会 (MII) 令和元年度秋季 (第185回) 大会準備運営	医用画像情報学会	令和元年9月14日	広島	大学教員、医師、 放射線技師	100名
7		看護理工学会評議委員会	看護理工学会	令和元年11月16日	東京	大学教員、医師、放 射線技師、看護師	100名

8		日本消化管CT技術学会評議会	日本消化管CT技術学会	令和2年1月24日	福岡	大学教員、医師、放射線技師	120名
9		日本消化管Virtual Reality学会総会、評議会	日本消化管 Virtual Reality 学会	令和2年1月25日	福岡	大学教員、医師、放射線技師	120名
10		医用画像情報学会 (MII) 令和元年度春季 (第186回) 大会準備運営	医用画像情報学会	令和2年2月1日	大阪	大学教員、放射線技師	約100名
11		医用画像情報学会 (MII) 令和元年度春季 (第187回) 大会、大会長、準備運営	医用画像情報学会	中止	群馬	大学教員、医師、放射線技師	—
12	教授 佐々木浩二	群馬放射線腫瘍研究会 世話人	群馬放射線腫瘍研究会	令和元年度	—	—	—
13		日本医学物理学会 代議員	日本医学物理学会	令和元年度	—	—	—
14		日本医学物理学会 QA/QC委員会委員	日本医学物理学会	令和元年度	—	—	—
15		日本医学物理学会 プログラム委員	日本医学物理学会	第119回日本医学物理学会学術大会	—	—	—
16		日本医学物理学会 CyPos審査員	日本医学物理学会	第119回日本医学物理学会学術大会	—	—	—
17		日本放射線技術学会 プログラム委員会委員	日本放射線技術学会	令和元年度	—	—	—
18		日本放射線技術学会 CyPos審査員	日本放射線技術学会	第76回日本放射線技術学会総会学術大会	—	—	—
19		Journal of Radiation Research Associate Editor	The Japan Radiation Research Society and Japanese Society for Radiation Oncology	令和元年度	—	—	—
20		Journal of Radiation Research 査読者	The Japan Radiation Research Society and Japanese Society for Radiation Oncology	令和元年度	—	—	—
21	教授 下瀬川正幸	日本教育学会第71回大会運営	日本教育学会	令和元年度7月～9月	大正大学	大学教員、教育学研究者	約600名
22		医学物理士認定機構 試験委員会委員	一般財団法人医学物理士認定機構	令和元年度	東京	—	—
23		医療情報技師能力検定試験問題作成委員	一般社団法人日本医療情報学会	令和元年度	—	—	—
24		医療情報研究会 (MISG) コアメンバー	医療情報研究会 (MISG: Medical Informatics Study Group)	令和元年度	—	—	—
25	教授 原 孝光	世話人	福島県核医学研究会	令和元年度	—	—	—
26	准教授 五十嵐 博	令和元年度 群馬県がん検診エックス線撮影従事者講習会の運営	一般社団法人群馬県診療放射線技師会	令和元年度9月10日、10月8日、11月12日、11月30日	本学、公益財団法人群馬県健康づくり財団	診療放射線技師	延192名

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時（期間）	実施場所	対象者	参加人数
27 准教授	五十嵐 博	診療放射線技師のためのフレッシュャーズセミナー（平成31年度）の運営	公益社団法人日本診療放射線技師会 一般社団法人群馬県診療放射線技師会	平成31年4月21日	本学	診療放射線技師	11名
28		業務拡大に伴う統一講習会の運営	公益社団法人日本診療放射線技師会	令和元年7月6日・7日、 12月1日・8日	本学	診療放射線技師	93名
29		日本放射線カウンセリング学会 副会長・理事・倫理委員長・編集委員・RC委員長・査読委員・相談員	日本放射線カウンセリング学会	令和元年度	—	診療放射線技師	—
30		群馬県診療放射線技師会 副会長・常務理事	一般社団法人群馬県診療放射線技師会	令和元年度	—	診療放射線技師	—
31		日本診療放射線技師会 代議員・医療被ばく安全管理委員・放射線被ばく相談員分科会委員・査読委員	一般社団法人日本診療放射線技師会	令和元年度	—	診療放射線技師	—
32		日本医療マネジメント学会 群馬県支部幹事	日本医療マネジメント学会群馬県支部	令和元年度	—	県内医療従事者	—
33		大山人間科学研究会 理事長	大山人間科学研究会	令和元年度	—	心理学研究者等	—
34		第14回 医療の質・安全学会学術集会 プログラム・実行委員	医療の質・安全学会	令和元年度	—	医療関係者等	—
35 准教授	佐藤 哲大	電子情報通信学会和文論文誌D査読委員	電子情報通信学会	令和元年度	本学	投稿論文	
36 准教授	大崎 洋充	日本核医学会PET核医学分科会PET撮像法標準化ワーキンググループ委員	日本核医学会	令和元年度	東京	医師、放射線技師	約20名
37		標準・規格委員会ワーキンググループ	日本放射線技術学会	令和元年度	東京	放射線技師、医療機器メーカー	約10名
38		Development of Simulation Environment for bone SPECT imaging using SIMIND	32nd Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine	令和元年10月12日～16日	Barcelona	医師、放射線技師医師、医学物理士など	約3000名
39		全身FDG-PET撮像のファントム試験における画素補間法の影響	第39回日本核医学技術学術学術大会	令和元年11月1日～3日	愛媛	医師、放射線技師医師、医学物理士など	約1000名
40		第2回核医学チュータ養成プログラム参加	日本放射線技術学会 核医学部会	令和元年12月14日～15日	東京	放射線技師、医療機器メーカー	約50名
41		2019年度 実践セミナー参加	日本放射線技術学会 近畿支部	令和元年12月14日～15日	大阪	放射線技師、医療機器メーカー	約50名
42 准教授	杉野 雅人	日本保健物理学会教員等協議会委員	日本保健物理学会	令和元年8月22日～	—	大学教員等	24名
43 准教授	林 則夫	日本放射線技術学会第74回総会学術大会司会、座長	日本放射線技術学会	平成31年4月11日～14日	横浜	診療放射線技師、研究者	—

44			第47回日本放射線技術学会秋季学術大会 座長、司会	日本放射線技術学会	令和元年10月17日～ 19日	大阪	診療放射線技師、 研究者	—
45			医用画像情報学会令和元年度秋季（第185 回）大会 座長	医用画像情報学会	令和元年9月14日	広島	医用画像工学研 究者	—
46			講師：画像診断検査におけるAIの役割	第11回茨城MR技術研究会	令和元年5月18日	土浦	診療放射線技師	約80名
47			講師：乳房画像診断におけるAIの進歩	第38回茨城乳がん検診研究会	令和元年11月15日	水戸	医師、看護師、 医療従事者	約80名
48			日本放射線技術学会雑誌 編集委員	日本放射線技術学会	令和元年度	—	—	—
49			日本放射線技術学会 撮影部会委員	日本放射線技術学会	令和元年度	—	—	—
50			日本放射線技術学会 国際戦略委員会委員	日本放射線技術学会	令和元年度	—	—	—
51			日本放射線技術学会 プログラム委員会審 査委員	日本放射線技術学会	令和元年度	—	—	—
52			日本放射線技術学会 代議員	日本放射線技術学会	令和元年度	—	—	—
53			医用画像情報学会 常務理事	医用画像情報学会	令和元年度	—	—	—
54			研究会 幹事	群馬MR研究会	令和元年度	—	—	—
55			研究会 代表世話人	群馬 Gyro Users Meeting	令和元年度	—	—	—
56			研究会 幹事	群馬 CTMRI研究会	令和元年度	—	—	—
57			研究会 幹事	群馬MR医学研究会	令和元年度	—	—	—
58			Radiological Physics and Technology誌 査読者	日本放射線技術学会	令和元年度	—	—	—
59			Magnetic Resonance in Medical Science誌 査読者	日本磁気共鳴医学会	令和元年度	—	—	—
60			Journal of Medical Imaging and Health Informatics 査読者	Journal of Medical Imaging and Health Informatics	令和元年度	—	—	—
61	准教授	渡部 晴之	日本放射線技術学会雑誌 査読者	日本放射線技術学会	令和元年度	—	—	—
62			日本放射線技術学会雑誌 査読者	日本放射線技術学会	令和元年度	—	—	—
63			医用画像情報学会 常務理事	医用画像情報学会	令和元年度	—	—	—
64			医用画像情報学会 令和元年度年次（第 184回）運営	医用画像情報学会	令和元年度	群馬	大学教員、放射 線技師、学生	93名
65			医用画像情報学会 令和元年度秋季（第 185回）運営	医用画像情報学会	令和元年度	広島	大学教員、放射 線技師、学生	62名
66			医用画像情報学会 令和元年度春季（第 186回）運営	医用画像情報学会	令和元年度	大阪	大学教員、放射 線技師、学生	106名
67	助教	川村 拓	茨城県診療放射線技師会理事会	茨城県診療放射線技師会	令和元年度	茨城	放射線技師	約20名

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
68 助教	川村 拓	日本放射線技師教育学会理事会	日本放射線技師教育学会	令和元年度	埼玉ほか	大学教員、放射線技師	約5名
69		日本診療放射線技師学会査読者	日本診療放射線技師学会	令和元年度	—	—	—
70		日本診療放射線技師会 臨床実習教員・施設分科会委員	日本診療放射線技師会	令和元年度	—	—	—
71		日本放射線技術学会査読者	日本放射線技術学会	令和元年度	—	—	—
72		Japanese Journal of Radiology 誌査読者	日本医学放射線学会	令和元年度	—	—	—
73 助教	米持 圭太	診療放射線技師のためのフレッシュャーズセミナー (平成31年度) 運営	日本診療放射線技師会 群馬県診療放射線技師会	平成31年4月22日	群馬	診療放射線技師	11名
74		業務拡大に伴う統一講習会 運営	日本診療放射線技師会	令和元年7月6日・7日、12月1日・8日	群馬	診療放射線技師	37名、56名
75		基礎技術講習 (超音波検査) 運営	日本診療放射線技師会	令和2年1月26日	群馬	診療放射線技師	17名
76		2019年度関東甲信越診療放射線技師学術大会 座長	東京都診療放射線技師会	令和元年6月29日、30日	東京	診療放射線技師	約700名
77		群馬県診療放射線技師会 常務理事・教育部長	群馬県診療放射線技師会	令和元年度	—	—	—
78		日本診療放射線技師会 教育委員	日本診療放射線技師会	令和元年度	—	—	—
79		群馬県核医学研究会 世話人	群馬県核医学研究会	令和元年度	—	—	—
80		臨床画像診断懇話会テクニカル分科会 プログラム委員 (世話人兼務)	臨床画像診断懇話会テクニカル分科会	令和元年度	—	—	—
81		群馬県診療放射線技師会 地区幹事・学術部員	群馬県診療放射線技師会	令和元年度	—	—	—

一般住民・団体対象の講演等

【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加人数
1	基 齋藤 基 講師 鈴木 美雪 講師 塩ノ谷朱美 講師 坪井 りえ 助教 佐々木馨子	学生と学ぶ健康教室 華麗に加齢講座パート6 食べているように食べていない力の源 シナリオ	前橋市上沖町自治会	令和元年9月28日	前橋市上沖町公民館	住民	約30人
2	行田 智子	妊娠期からの子育て支援と支援者のかかわり	藤岡市健康推進員研修会	平成31年4月19日	藤岡市	藤岡市健康推進員	約50名
3	狩野 太郎	渋川市認知症サポーターステップアップ研修講師	渋川市地域包括支援センター	令和元年10月4日、10日	渋川市子持社会体育館 会議室	住民	15名
4		元気に“動こう・歩こう”実践リーダー研修・認知症や寝たきりを予防する身体活動とその効果	群馬県健康福祉部保健予防課	令和元年11月2日	高崎健康福祉大学	研修受講者	20名
5		令和元年度ぐんま県民カレッジ「フレイル予防」	群馬県教育委員会事務局 中部教育事務所	令和元年11月6日	大胡公民館	研修受講者	約100名
6		フレイル予防と社会貢献	高齢者あしん相談センタークローバー荘	令和元年6月28日	館林市文化会館 小ホール	住民	約100名
7	清水 裕子 高橋美穂子 大澤 康子	血管年齢、血圧、肌水分量の測定	前橋市桂萱地区健康づくり推進協議会	令和元年12月8日	前橋市桂萱公民館	住民	80名
8	清水 裕子	2019年度 群馬県保健師助産師看護師実習指導者講習会「看護教育課程」	公益社団法人 群馬県看護協会	令和元年5月15日	群馬県看護教育センター	看護職者	80
9		群馬県看護協会一般研修「がん患者に寄り添う意思決定支援」	公益社団法人 群馬県看護協会	令和元年10月16日	群馬県看護教育センター	看護職者	100
10	清水 裕子 木村 美香	群馬県看護協会 職能研修「ファシリテーターの技法を学ぶ」	公益社団法人 群馬県看護協会	令和元年11月26日	群馬県看護教育センター	看護職者	70
11	清水 裕子	研究計画書を作成するための基礎知識	群馬がん看護研究会	令和2年1月25日	群馬県立県民健康科学大学	看護職者	4
12		高崎総合医療センター 看護研究指導	高崎総合医療センター	令和元年度 計5日間	高崎総合医療センター	看護職者	30
13	大川美千代 高橋美穂子	高齢者に多い入浴事故	高齢者はつらつ教室	令和元年6月21日	榛東村	住民	20名
14		高齢者に多い入浴事故	星川学級	令和元年11月25日	富岡市小野公民館	住民	約20名
15	大川美千代	高齢者に多い入浴事故	かすかわ元気 講座	令和元年11月29日	粕川公民館	住民	12名
16	高橋 裕子	思春期ピアカウンセリングセラ―養成セミナー(前期コース)	群馬ピアカウンセリング研究会	令和元年6月29、30日、7月6、7日	高崎健康福祉大学	大学生	約60名

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
17 講師	高橋 裕子	思春期ピアカウンセリング養成セミナー (後期コース)	群馬ピアカウンセリング研究会	令和2年2月9・10日	高崎健康福祉大学	大学生	約40名
18 講師	垣上 正裕	県民カレッジ「現代の若者の心を考える」 思春期・青年期の心の健康問題	群馬県	令和元年10月26日	太田市	県民	-
19 助教	大澤 康子	「女性専用」健康教室	健康保険組合連合会群馬連合会	令和元年7月9日	群馬県生涯学習センター 1階 多目的ホール	被扶養者・被保険者	約20名
20 助教	大澤 康子 高橋美穂子	2019健康管理委員会 (健康講演・測定会)	関東いすゞ健康保険組合	令和元年10月9日	関東いすゞ自動車株式会社本社 4階会議室	健康管理委員	約40名

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
1 教授	小倉 敏裕	体験講義「バーチャル内視鏡」	藤岡中央高校模擬講義 (キャンパス見学)	令和元年10月11日	本学	高校生	40名
2		「プライマリヘルスケアに重点を置いた キューバ国の医療について」	第1回国際交流セミナー開催	令和元年6月12日	本学	学生、教員、県民	約100名
3		テーマ「グローバル社会に向き合うために」	第2回国際交流セミナー開催	令和元年11月1日	本学	学生、教員、県民	約110名
4		体験講義「最新の画像処理技術とバーチャルエンドスコープ」	市立前橋高校模擬講義 (キャンパス見学)	令和元年6月13日	本学	高校生	40名
5		体験講義「仮想大腸内視鏡」	栃木湘南高校模擬講義 (キャンパス見学)	令和元年5月21日	本学	高校生	40名
6 教授	瀬川 篤記	高校生物と医療系大学の医学講義はどこが違うのか？	群馬県立伊勢崎高等学校 (キャンパス見学)	令和元年9月27日	群馬県立県民健康科学大学	医療職を希望する高校生	60名
7		高校生物と医療系大学の医学講義はどこが違うのか？	群馬県立伊勢崎清明高等学校	令和元年10月17日	群馬県立伊勢崎清明高等学校	医療職を希望する高校生	50名
8		高校生物と医療系大学の医学講義はどこが違うのか？	群馬県立桐生南高等学校 (キャンパス見学)	令和元年12月10日	群馬県立県民健康科学大学	医療職を希望する高校生	60名
9 教授	原 孝光	放射線の細胞影響	栃木県立栃木翔南高校	令和元年9月25日	栃木県立栃木翔南高校	高校生	56名
10		前橋市桂萱地区骨密度測定会	桂萱地区地域づくり推進協議会事務局 (桂萱公民館内)	令和元年12月8日	前橋市桂萱公民館	桂萱地区住民	約100名
11 准教授	大崎 洋充	核医学における骨転移診断の最新動向～客観的診断のための技術的アプローチ～	第35回日本診療放射線技師学会術前大会ランチョンセミナー	令和元年9月16日	大宮ソニックシティ	学会員	約200名
12		NaF-PET ファントム試験の理論的背景	第19回日本核医学会春季大会	平成31年4月27日～28日	虎ノ門ヒルズ	学会員	約300名

保健医療専門職対象の講演等

【学長】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
学長	高田 邦昭	大学における看護系人材養成の充実に向けて	令和元年度公立大学協会看護・保健医療部会総会	令和元年 8月26日	三重県立看護大学、津	公立大学看護・保健医療系学部長	100

【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
1	齋藤 基 坪井 りえ	保健師主務者会義 「保健師として大切にしている活動を次世代にどのように伝えていくか」 「保健師の職業的アイデンティティの発達に向けて」	群馬県健康福祉部医務課看護係	令和元年10月11日	県男女共同参画センター	県内市町村保健師主務者	60名
2		保健師人材育成推進体制評価会議・期別研修会 「保健師として大切にしている活動を次世代にどのように伝えていくか」 「保健師の職業的アイデンティティの発達に向けて」	高崎市	令和2年2月19日	高崎市総合保健センター	高崎市リーダー 期・管理期保健師 (採用21年目以降)	54名
3	教授 行田 智子	「小論文・レポートの書き方」 養育支援訪問員の養成講座	群馬県看護協会	令和元年5月28日	群馬県看護協会	看護職	約100名
4		家族の強みと課題の評価～支援計画の立て方～	HEALTHY FAMILY はままつ	令和元年11月9日	浜松市福祉交流センター	看護職、保育士等	10名
5	教授 山下 暢子	群馬県実習指導者講習会「看護論」	群馬県	令和元年5月20日～ 6月24日	群馬県看護協会	県内の実習指導者	約50名
6		IMS実習指導者講習会「看護論」	IMSグループ	令和元年12月14日～ 22日	イムス横浜国際看護専門学校	実習指導者	約50名
7		前橋赤十字病院「臨床指導者研究会」 看護学実習に関する基礎知識	前橋赤十字病院	令和元年6月28日	前橋赤十字病院	臨床指導者	約50名
8		臨床教授等合同研修会「臨床教授・准教授・講師・助教と教員間連携のための基礎知識－役割の相互理解と実習指導の質向上に向けて－	群馬県立県民健康科学大学看護学部教務部会	令和元年9月10日	群馬県立県民健康科学大学	本学の臨床教授・准教授・講師・助教	24名
9	教授 狩野 太郎	平成31年ぐんま認定介護福祉士養成研修 講師「研究方法」「研究活動について」	群馬県健康福祉部介護高齢課	令和元年7月3日、 10月17日	群馬県社会福祉事業団特別養護老人ホーム明風園 研修室	介護福祉士	80名
10		認知症ケアに関する施設内学習会	社会福祉法人 仁和会 特別養護老人ホーム 八瀬川の里	令和元年7月22日	太田市	—	—

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加人数
11 教授	狩野 太郎	医療者向けセミナー2019 in 東京「抗がん剤治療における曝露対策について」	日本肺がん学会、中外製薬株式会社	令和元年7月27日	東京	看護師・薬剤師・医師	約100名
12 教授 講師 助教	狩野 太郎 佐藤 正樹 大澤 康子	平成31年度認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程(看護情報論)	群馬県看護協会	令和元年8月28日、29日、9月4日、5日	群馬県看護教育センター	看護師	60名
13 教授	狩野 太郎	医療者向けセミナー2019 in 神戸「抗がん剤治療における曝露対策について」	日本肺がん学会、日本イーライリリー株式会社	令和元年9月28日	神戸	看護師・薬剤師・医師	約80名
14		医療者向けセミナー2019 in 仙台「抗がん剤治療における曝露対策について」	日本肺がん学会、MSD株式会社	令和元年10月19日	仙台	看護師・薬剤師・医師	約80名
15 教授	廣瀬規代美	研究計画書の書き方	群馬がん看護研究会教育委員会	令和2年1月26日	群馬県立県民健康科学大学	看護師	10名
16 教授	大澤真奈美	群馬県保健師助産師看護師実習指導者講習会 講義「保健師教育課程」	群馬県	令和元年5月28日	群馬県看護協会	実習指導者	70名
17		認定看護管理者ファーストレベル教育課程 講義「看護専門職論-看護の社会的責務と法的根拠」	群馬県看護協会	令和元年6月13日	群馬県看護協会	看護職	60名
18		群馬県新任保健師研修会 講義「地域診断の実際」	群馬県医療課	令和元年10月15日	群馬県立県民健康科学大学	県内新任保健師	31名
19 准教授	服部 美香	群馬県実習指導者講習会「実習指導の原理」	群馬県看護協会	令和元年5月～6月	群馬県看護教育センター	看護職者	約60名
20		認定看護管理者ファーストレベル教育課程「統合演習Ⅰ」	群馬県看護協会	令和元年6月～9月	群馬県看護教育センター	看護職者	約100名
21		看護学生実習指導者講習会「実習指導案作成演習」	埼玉看護協会	令和元年7月～8月	埼玉高齢者介護研修センター	看護職者	約130名
22		2019年度福島県専任教員養成講習会「看護教育評価論」	福島県看護協会	令和元年8月5日	福島県看護会館 みらい	看護職者	約30名
23		東松山市立市民病院院内研修「問題解決の論理的思考」	東松山市立市民病院看護部	令和元年7月19日	東松山市立市民病院	看護職者	約30名
24 准教授	上山 真美	認知症初期集中支援チームの概要と実際	日本プライマリケア連合学会認定薬剤師会	平成31年4月28日	東京医科歯科大学	薬剤師	約50名
25		看護研究に関する研修	公立館林厚生病院	令和元年5月～3月	公立館林厚生病院	看護師	約20名
26		排尿ケアに関する研修	鶴谷病院	令和元年7月5日	境総合文化センター	看護職他	約50名
27 講師 講師	鈴木 美雪 坪井 りえ	実践力アップ事例検討会	県庁保健師会	令和2年2月6日	群馬県こころの健康センター	群馬県保健師	14名

28	講師 准教授 助教	鈴木 美雪 飯田 苗恵 佐々木馨子	第1回難病・小児慢性特定疾病実務者研修会	前橋市保健所	令和元年7月31日	前橋市第2コ ミュニティーセ ンター	訪問看護師、介 護支援専門員等	94
29			第2回難病・小児慢性特定疾病実務者研修会	前橋市保健所	令和元年12月17日	前橋市保健セン ター4階	訪問看護師、介 護支援専門員等	28
30	准教授 講師	飯田 苗恵 鈴木 美雪	難病支援実務者研修会（東毛ブロック）	太田保健福祉事務所	令和2年2月19日	太田市福祉会館	訪問看護師、介 護支援専門員等	67
31	講師	塩ノ谷朱美	群馬県新任保健師研修会 グループワーク助言「課題を共有して目標 を考えよう」	群馬県健康福祉部医務課	令和元年10月15日	群馬県立県民健 康科学大学	2019年度県及び市 町村の新規採用 保健師	33名
32	講師	林 はるみ	ドナー卵子で家族をつくる－現状と課題－	新潟生命倫理研究会	令和2年1月9日	新潟県	保健医療職、生命 倫理研究者ほか	40名
33	講師	河内 直美	新人看護職員実地指導者研修会	群馬県看護協会（群馬県委託）	令和元年10月10日	群馬県看護教育 センター	看護職者	約80名
34	講師	垣上 正裕	群馬県庁臨床検査技師会学会研修	群馬県庁臨床検査技師会	令和2年1月25日	前橋市	臨床検査技師	50名
35			群馬県庁勤務薬剤師会学会講演会	群馬県庁勤務薬剤師会	令和2年1月29日	前橋市	薬剤師	50名
36	助教	大澤 康子	看護研究個別支援	群馬県立県民健康科学大学 地域 連携センター	令和元年7月～ 令和2年3月	群馬県立県民健 康科学大学	看護師	3名
37	助教 講師 准教授	佐々木馨子 鈴木 美雪 飯田 苗恵	令和元年度 難病患者療養支援実務者研修 会「支援者みんなで考える神経難病在宅療 養者のための災害への備え」	高崎市保健所	令和元年12月6日	高崎市総合保健 センター	訪問看護師、介 護支援専門員等	約40名
38	助教	佐々木馨子	令和元年度 群馬県多職種連携研修	群馬県健康福祉部障害政策課	令和2年1月29日	ぐんま男女共同 参画センター	訪問看護師、介 護職等	約25名
39			訪問看護研修（ステップ1）訪問看護課程	群馬県看護協会	令和元年8月6日 令和元年8月27日	群馬県看護協会	看護職	17名

【診療放射線学部】

	職位	氏 名	活動・テーマ	主 催	実施日時（期間）	実施場所	対象者	参加名数
1	教授	佐々木浩二	放射線治療 医学物理講義 講師	磐田市立総合病院	令和元年12月13日	磐田市立総合病 院	医学物理士、 診療放射線技師、 医師	12名
2	教授	下瀬川正幸	放射線医学総合研究所第15回医学物理コー ス「放射線診断物理学」講師	国立研究開発法人量子科学技術研 究開発機構放射線医学総合研究所	令和元年7月10日	放射線医学総合 研究所	医学物理士	30名
3	准教授	五十嵐 博	エチケット・マナー講座	公益社団法人日本診療放射線技師会 一般社団法人群馬県診療放射線技師会	平成31年4月21日	本学	診療放射線技師	11名

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加人数
4 准教授	五十嵐 博	医療コミュニケーション	公益社団法人日本診療放射線技師会 一般社団法人群馬県診療放射線技師会	平成31年4月21日	本学	診療放射線技師	11名
5		事例検討 原発事故後の雨に濡れたことへの不安	日本放射線カウンセリング学会	令和元年6月22日	熊本地域医療センター	診療放射線技師	10名
6		傾聴訓練指導	日本放射線カウンセリング学会	令和元年6月23日	熊本地域医療センター	診療放射線技師	10名
7		統一講習会実習指導	公益社団法人日本診療放射線技師会	令和元年7月7日	本学	診療放射線技師	37名
8		傾聴訓練指導	公益社団法人日本診療放射線技師会	令和元年7月15日	日本診療放射線技師会講義室	診療放射線技師	30名
9		医療被ばく相談の基礎と実践	一般社団法人群馬県診療放射線技師会	令和元年9月10日	本学	診療放射線技師	54名
10		うっかりミスはなぜ起きる：そのメカニズムと対策を考える	公益社団法人日本診療放射線技師会	令和元年9月14日	大宮ソニックシティ	診療放射線技師	300名
11		事例検討 原発事故後の雨に濡れたことへの不安：第2報	日本放射線カウンセリング学会	令和元年11月16日	埼玉会館	診療放射線技師	10名
12		傾聴訓練指導	日本放射線カウンセリング学会	令和元年11月17日	埼玉会館	診療放射線技師	10名
13		統一講習会実習指導	公益社団法人日本診療放射線技師会	令和元年12月8日	本学	診療放射線技師	56名
14		傾聴訓練指導	公益社団法人日本診療放射線技師会	令和2年2月9日	日本診療放射線技師会講義室	診療放射線技師	36名
15 准教授	大崎 洋充	骨 SPECT 撮像に関する研究報告	第2回MITech	令和元年6月8日	前橋マーカーリー	放射線技師	約30名
16		骨 SPECT 標準化ファントム実験施設の結果報告	第29回臨床画像診断懇話会 群馬テクノカル分科会	令和元年7月3日	群馬県立県民健康科学大学	放射線技師	約30名
17		核医学の基礎のキソ・病院実習：大学から望むこと	第161回埼玉核医学技術研究会	令和元年7月4日	さいたま日赤病院	放射線技師	約50名
18		GI-BONE レクチャー	第48回兵庫県核医学技術検討会	令和元年11月30日	三宮研修センター	放射線技師	約100名
19 准教授	高橋 哲彦	講演「位相画像の基礎から最先端までをやさしく解説」	群馬MR研究会	令和元年9月18日	群馬県立県民健康科学大学	放射線技師	50名
20 准教授	渡部 晴之	診療放射線技師基礎技術講習「超音波検査」	日本診療放射線技師会	令和2年1月26日	群馬県立県民健康科学大学	診療放射線技師	約20名

行政組織での活動

【学長】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
学長	高田 邦昭	大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会 委員 (座長)	文部科学省高等教育局医学教育課	平成31年3月1日～ 令和2年3月31日	文部科学省	—	—
		大学機関別認証評価委員会専門委員	独立行政法人大学改革・学位授与機構	令和元年5月1日～ 令和2年3月31日	—	—	—
		研究評価委員	群馬県衛生環境研究所	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	—	—	—

【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
1 教授	行田 智子	「妊娠期から親となる過程を促進する」支援ワークショップ	群馬県こども未来部児童福祉課	令和2年1月～3月	—	—	—
2 教授 講師 助教	行田 智子 橋爪由紀子 林 はるみ 生方 尚絵	「子育てママのこころの相談」個別相談	利根沼田保健福祉事務所	令和元年4月～ 令和2年3月	利根沼田保健福祉事務所	住民	—
3 教授	横山 京子	県立病院総合研究選考・評価委員	群馬県病院局	令和元年4月～ 令和2年3月	群馬県庁会議室	県立病院職員	—
4		群馬県健康福祉部医学系研究等に係る倫理委員会委員	群馬県健康福祉課	令和元年9月～ 令和2年3月	群馬県庁会議室	群馬県職員	—
5 教授	狩野 太郎	群馬県がん診療連携拠点病院連絡協議会市民講座企画ワーキングメンバー	群馬県／群馬県診療連携拠点病院連絡協議会	平成31年4月～令和元年7月	群馬会館、群馬大学医学部附属病院	患者・一般市民	300名
6 教授	高井ゆかり	群馬県高齢介護施設推進協議会委員	群馬県高齢介護課	令和元年度	—	—	—
7 教授	大澤真奈美	群馬県アルコール健康障害対策連絡協議会委員	群馬県健康福祉部障害政策課	令和元年度	群馬県庁	一般市民	—
8		県民健康・栄養調査企画解析検討委員会	群馬県健康福祉部保健予防課	令和元年度	群馬県庁	一般市民	—
9		群馬県開発審査会 委員	群馬県県土整備部建築課	令和元年度	群馬県庁	一般市民	—
10		前橋市介護保険認定審査会 委員	前橋市介護保険課	令和元年度	前橋市役所	一般市民	—
11		前橋市自立支援給付認定審査会 委員	前橋市障害福祉課	令和元年度	前橋市保健所	一般市民	—
12		前橋市食育推進会議 委員長	前橋市健康増進課	令和元年度	前橋市保健センター	一般市民	—
13		前橋市環境審議会 委員	前橋市環境政策課	令和元年度	前橋市役所	一般市民	—
14		第2期榛東村総合戦略有識者会議 委員	榛東村企画財政課	令和元年度	榛東村役場	一般市民	—
15 准教授	上山 真美	認知症初期集中支援チーム員	前橋市地域包括支援センター西部	令和元年度	—	—	—

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
16 講師	塩ノ谷朱美	若い世代食育推進協議会 委員	群馬県健康福祉部 保健予防課	令和元年5月～令和2年3月	—	—	—
17 講師	林 はるみ	新潟県「地域の子育て力育成事業」 『助産師による妊活なんでも相談』 プロジェクト委員会 委員長	新潟市男女共同参画課および公益 社団法人新潟県助産師会	令和元年度	新潟市	新潟市民	—
18		大学生向け女性ロールモデル集 冊子「なみおと」インタビュイーおよび編 集	新潟市男女共同参画課	令和元年度	新潟市	新潟県内大学生	—
19 講師	垣上 正裕	群馬県立高校中堅教諭資質向上研修	群馬県教育委員会	令和元年8月5日	群馬県総合教育 センター	県立高校教諭	65名

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
1 教授	佐々木浩二	放射線・陽子線治療品質管理委員会 外部 委員	静岡県立静岡がんセンター	令和元年度	—	—	—
2		放射線治療品質管理委員会 委員	磐田市立総合病院 (静岡県)	令和元年度	—	—	—
3 教授	下瀬川正幸	診療放射線技師国家試験委員	厚生労働省	平成25年7月～令和 元年6月	厚生労働省	—	—
4 教授	瀬川 篤記	診療 (病理診断) の支援	桐生厚生総合病院	令和元年度	桐生厚生総合病院	患者	のべ約300例
5 教授	原 孝光	量子科学技術研究開発機構 量子ビーム科 学研究部門 高崎量子応用研究所 協力研 究員	量子科学技術研究開発機構 量子 ビーム科学研究部門 高崎量子応 用研究所	令和元年度	量子科学技術研究開 発機構 量子ビーム 科学研究部門 高崎 量子応用研究所	—	—
6		業務経歴審査委員会委員	量子科学技術研究開発機構 量子 ビーム科学研究部門 高崎量子応 用研究所	令和元年10月9日	量子科学技術研究開 発機構 量子ビーム 科学研究部門 高崎 量子応用研究所	—	—
7 准教授	杉野 雅人	環境放射線測定に関する協力研究員	国立研究開発法人 量子科学技術 研究機構 福島再生支援研究部	令和元年度	量子科学技術研 究機構	—	—
8		前橋市放射線管理アドバイザー	前橋市環境部環境森林課	令和元年5月29日～ 令和2年3月	—	—	—
9		みどり市放射線対策アドバイザー	みどり市市民部生活環境課	令和元年7月29日～	—	—	—
10		川場村放射線対策アドバイザー	川場村役場むらづくり振興課	平成31年4月1日～	—	—	—
11 助教	川村 拓	量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 協力研究員	量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所	令和元年度	—	—	—
12		国立研究開発法人 理化学研究所 客員研究員	国立研究開発法人 理化学研究所	令和元年度	—	—	—

任意団体での活動

【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加人数
1 教授	行田 智子	看護・助産教育支援フォーラム	倫理委員	令和元年度	—	—	約〇名
2 教授	行田 智子	WFWP 女子留学生日本語弁論群馬県大会	審査員	令和元年 7月15日	高崎市総合福祉センター	女子留学生	約50名
3 教授	横山 京子	群馬県看護協会倫理委員会	群馬県看護協会	平成31年 4月～令和2年 3月	群馬県看護協会	—	—
4 教授	狩野 太郎	群馬県がん患者ミーティング2019企画・登壇	群馬県がん患者団体連絡協議会	新型コロナウイルス感染症により中止	群馬県健康づくり財団	患者・一般市民	—
5		リレーフォーライフジャパン2019ぐんま副実行委員長	日本対がん協会、リレーフォーライフジャパンぐんま実行委員会	台風19号により中止	ALSOKぐんま総合スポーツセンター	患者・一般市民ほか	—
6		群馬県がん患者団体連絡協議会 運営委員	群馬県がん患者団体連絡協議会	令和元年度	群馬県健康づくり財団	患者	—
7		ホリデーインまえばし実行委員・当日救護担当	ホリデーインまえばし実行委員会	令和元年 8月25日 (平成31年 4月～令和元年12月)	前橋元気21、前橋敷島公園	幼児・児童	5000人
8 教授	廣瀬規代美	群馬県がん看護研究会 理事・教育委員会委員長	群馬県がん看護研究会	令和元年度	群馬大学他	会員	—
9		第15回がん看護フォーラム	群馬県がん看護研究会	令和元年度	群馬県立県民健康科学大学	会員	219名
10 教授 講師	大澤真奈美 小西 美里	群馬県精神科訪問看護交流会	県内精神科訪問看護師	令和元年 5月10日・11月8日	県立精神医療センター・本学	精神科訪問看護師等	各15名程度
11 准教授	清水 裕子	群馬県がん看護研究会 理事兼教育委員	群馬県がん看護研究会	令和元年度	—	—	100名
12 准教授	上山 真美	排尿ケアに関する研修	群馬コンチネンスフォーラム	令和元年11月22日	境総合文化センター	看護職他	約50名
13 准教授 講師	上山 真美 樋口 友紀	社会福祉法人富士見会夏祭り学生ボランティア調整および参加協力	社会福祉法人富士見会	令和元年 8月18日	富士見デイサービスセンター他	施設利用者、家族他	多数
14 准教授 講師	大川美千代 鈴木 恵理	ぐんま看護ケアを考える会 活動のあゆみ作成	ぐんま看護ケアを考える会	令和元年度	—	—	約〇名
15 准教授 講師 助教	飯田 苗恵 福島 昌子 佐々木馨子	令和元年度日本ALS協会群馬県支部患者総会運営補助、学生ボランティア派遣	日本ALS協会群馬県支部	令和元年 5月25日	群馬県社会福祉総合センター	ALS療養者・家族	約80名
16 講師	中野あずさ	第25回 桃の木祭 セラピーティック・ケア体験	認定NPO法人 日本セラピーティック・ケア協会	令和元年11月10日	群馬県立県民健康科学大学 エントランスホール	地域住民、大学関係者他	約40名
17		タッピングタッチアドバンス講座アシスタント	一般社団法人 タッピングタッチ協会	令和元年12月 8日	東京 内村京橋ビル 4F	講座受講者	約20名

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
18 講師	林 はるみ	日本母性看護学会 評議員	日本母性看護学会	令和元年度	-	-	-
19		日本生殖看護学会 編集委員	日本生殖看護学会	令和元年度	-	-	-
20		第17回日本生殖看護学会学術集会 座長	日本生殖看護学会	令和元年 9月15日	東京都	看護職者	400名
21		第34回日本助産学会学術集会 座長	日本助産学会	令和2年 3月20、21日	新潟市	看護職者	-
22		第22回日本母性看護学会学術集会 一般演題査読委員	日本母性看護学会	令和元年度	-	-	-
23		第34回日本助産学会学術集会 一般演題査読委員	日本生殖看護学会	令和元年度	-	-	-
24 講師	高橋 裕子	第8回思春期ピアカウンセリング全国大会in群馬	群馬ピアカウンセリング研究会	令和元年 9月14・15日	国立赤城青年の家	大学生	約160名
25 講師	垣上 正裕	群馬地区安全衛生大会	群馬労働基準協会	令和元年 10月29日	前橋市	前橋市企業	70名
26		厚生労働省労働組合関東地方協議会	全国労働省労働組合	令和2年 2月15日	東京都中央区	厚生労働省職員	100名
27 助教	田村 香奈	太田市ファミリー・サポート・センター まかせて会員登録講習会 「粉ミルク・哺乳瓶の使い方・上手なミルク の飲ませ方」	認定NPO法人すずらん 太田市ファミリー・サポート・セ ンター	令和元年 6月13日	太田市新田勤労 会館 大会議室	まかせて会員(一 般住民)	約20名

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
1 教授	佐々木浩二	放射線治療品質管理委員会 外部委員	慈泉会 相澤病院	令和元年度	-	-	-
2 教授	下瀬川正幸	分科会講師「研究時間の確保に向けた取り 組み事例」	一般社団法人公立大学協会 看 護・保健医療部会	令和元年 8月26日	三重県立看護大 学	-	約50名
3		群馬県放射線部門責任者会議	一般社団法人群馬県診療放射線技 師会	令和元年 11月13日	群馬県立県民健 康科学大学	-	約50名
4 教授	瀬川 篤記	診療 (病理診断) の支援	医療法人社団 美心会 黒沢病院	令和元年度	黒沢病院 (高崎)	患者様	のべ約 100例
5 教授	原 孝光	研究アドバイザー及び放射線治療品質管理	一般財団法人慈山会 医学研究所 付属 坪井病院	令和元年度	-	-	-
6 准教授	五十嵐 博	群馬県環境アドバイザー	群馬県環境アドバイザー協会	令和元年度	-	-	-
7 准教授	杉野 雅人	群馬県教育ギター・マンドリン連盟 第47回 定期演奏会	群馬県教育ギター・マンドリン連 盟	令和元年 9月23日	群馬県生涯学習 センター	-	約70名
8 准教授	林 則夫	桃の木リバーを愛する会：花壇苗植え	桃の木リバーを愛する会	令和元年 5月25日	桃の木川	-	-
9		桃の木リバーを愛する会：草刈	桃の木リバーを愛する会	令和元年 8月26日	桃の木川	-	-
10		桃の木リバーを愛する会：花壇苗植え	桃の木リバーを愛する会	令和元年 12月4日	桃の木川	-	-

他教育機関非常勤講師

【看護学部】

	職位	氏名	活動・テーマ (科目名等)	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
1	教授	行田 智子	妊娠期の助産診断技術学	高崎健康福祉大学大学院	平成31年4月1日～ 令和元年9月22日	高崎健康福祉大学大学院	助産専攻院生	3名
2	教授	横山 京子	看護学特別セミナー	群馬大学大学院保健学研究科	令和元年6月29日	群馬大学大学院	博士前期課程学生	約10名
3	教授	山下 暢子	看護教育学	新潟県立看護大学	令和元年12月10日～24日	新潟県立看護大学	博士前期課程院生	12名
4	教授	狩野 太郎	認知症看護認定看護師教育課程 医療情報論講師	高崎健康福祉大学 看護実践開発センター	令和元年6月5日、6日	高崎健康福祉大学	受講生	30名
5			本庄児玉看護専門学校非常勤講師 (研究の基礎 文献検索入門、研究方法論 (1) 調査・実験研究)	本庄児玉看護専門学校	令和元年12月2日	本庄児玉看護専門学校	看護学生	40名
6	教授	廣瀬規代美	成人看護学名論Ⅱ「喉頭がん」	茨川看護専門学校	令和元年5月13日	茨川看護専門学校	看護学生	40名
7	教授	大澤真奈美	地域看護方法「精神保健福祉対策と保健師活動」「難病対策と保健師活動」	千葉大学看護学部	令和元年12月5日	千葉大学看護学部	看護学生	約90名
8			産業保健	足利大学看護学部	令和元年9月～12月	足利大学看護学部	看護学生	約80名
9	教授 講師 講師 講師	大澤真奈美 鈴木 美雪 坪井 りえ 塩ノ谷朱美	保健環境論	上尾中央看護専門学校	令和元年9月～令和2年1月	上尾中央看護専門学校	看護学生	約80名
10	准教授	服部 美香	看護研究	深谷大里看護専門学校	令和元年4月～5月	深谷大里看護専門学校	看護学生	約40名
11			観察	群馬県消防学校 消防職員専科教育第25期救急科	令和元年10月～11月	群馬県消防学校	消防士	69名
12	准教授	上山 真美	看護学特別セミナー	群馬大学大学院	令和元年8月11日	群馬大学大学院	大学院生	約10名
13			認知症看護援助方法論Ⅰ	高崎健康福祉大学 センター 認定看護師教育課程	令和元年8月12日	高崎健康福祉大学	認定看護師教育課程履修生	30名
14	講師	林 はるみ	大学生のための役に立つ育児学	新潟大学	令和元年7月21日	新潟大学	7学部の学生	160名
15	講師	垣上 正裕	発達と老化の理解	群馬パース福祉専門学校	平成31年4月～令和元年6月	群馬パース大学 福祉専門学校	専攻科学生	4名

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ(科目名等)	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加人数
1 教授	青木 武生	組織学講義・実習	国立大学法人 群馬大学	令和元年7月26日	群馬大学 昭和キャンパス	医学部学生	123名
2		細胞生物学	国立大学法人 群馬大学	令和元年11月8日、11月15日	群馬大学 昭和キャンパス	医学部学生	108名
3		解剖生理学	館林高等看護学院	平成31年4月19日～令和元年6月7日	館林高等看護学院	看護学生	40名
4		病理学総論	館林高等看護学院	令和元年10月7日～11月18日	館林高等看護学院	看護学生	40名
5 教授	小倉 敏裕	イメージング看護学、老年看護学特論Ⅱ	東京大学大学院医学系研究科	令和元年度	東京大学 本郷キャンパス	大学院生	約20名
6		高麗大学校学部向け講義 タイトル：脳波などを利用した信号の医療応用、バーチャルエンドスコープ	高麗大学校健康科学大学	令和元年9月25日	高麗大学校健康科学大学(ソウル)	高麗大学校健康科学大学学生・群馬県立県民健康科学大学学生	約100名
7		大学院生向け講義 タイトル：脳波、視点追跡、AIを利用した画像処理装置の開発	高麗大学校健康科学大学大学院	令和元年9月26日	高麗大学校健康科学大学大学院(ソウル)	高麗大学校健康科学大学学生	20名
8 教授	下瀬川正幸	放射線学シミュレータ特論、放射線画像解析学特論Ⅱ	群馬大学大学院医学系研究科	令和元年度	-	-	-
9 教授	瀬川 篤記	臨床実習	群馬大学	令和元年6月～令和2年3月	群馬大学医学部附属病院	医学科学学生および初期研修医	のべ約30名
10		病理学	前橋東看護学校	令和元年7月～令和2年9月	前橋東看護学校	看護学生	約40名
11		病理学	高崎健康福祉大学	令和元年10月～令和2年12月	高崎健康福祉大学	学生(看護・理学療法)	約170名
12 教授	原 孝光	福島県立医科大学 特任教授	福島県立医科大学	令和元年度	福島県立医科大学	-	-
13		群馬大学腫瘍放射線学講座協力研究員	群馬大学	令和元年度	群馬大学	-	-
14		放射線管理計測学特論	群馬大学大学院医学系研究科	令和元年度	群馬大学	-	-
15 准教授	五十嵐 博	医療人間工学	館林高等看護学院	平成31年4月15日～令和元年6月10日	館林高等看護学院	看護学生	40名
16 客員教員	佐藤 哲大	修士論文研究指導	奈良先端科学技術大学院大学	令和元年度	奈良先端科学技術大学院大学	情報科学研究科博士前期課程学生	1名

17	准教授	大崎 洋充	放射性医薬品学	東京電子専門学校	平成31年4月15日～ 令和元年9月30日	東京電子専門学 校	診療放射線学科生	約70名
18			分子イメージングの検査技術	東京医科歯科大学	平成31年4月1日～ 令和元年9月30日	東京医科歯科大 学	医学部生・研究生	約10名
19	准教授	杉野 雅人	放射線安全管理特論	群馬大学大学院医学系研究科	令和元年度	—	—	—
20	准教授	林 則夫	金沢大学医薬保健研究域医学系協力研究員	金沢大学	令和元年度	—	—	—
21			非常勤講師：放射線画像技術学特論	群馬大学大学院医学系研究科	令和元年度	—	—	—
22	助教	川村 拓	医用画像情報学実験	首都大学東京	平成31年4月1日～ 令和元年9月30日	首都大学東京	放射線学生	約40名
23			医用画像情報学実験	日本医療科学大学	平成31年4月1日～ 令和元年9月30日	日本医療科学大 学	放射線学生	約80名
24			茨城県立医療大学学外共同研究員	茨城県立医療大学	令和元年度	茨城県立医療大 学	—	—
25			首都大学東京客員研究員	首都大学東京	令和元年度	首都大学東京	—	—

報道記事

【看護学部】

	職位	氏 名	報道機関	全国版・地方版（番組名）	掲載日時	テーマ
1	教授	狩野 太郎	上毛新聞		令和元年7月1日	館林市で登壇したフレイル予防講演について紹介された
2			上毛新聞	風っこ	令和元年9月15日	敬老の日になんで認知症の症状と接し方について解説した

【診療放射線学部】

	職位	氏 名	報道機関	全国版・地方版（番組名）	掲載日時	テーマ
1	准教授	五十嵐 博	上毛新聞 シャトル	地方版	令和元年7月18日	「うっかりミスを防ごう」 休泊行政センサーで講座

Ⅲ

関連規程

群馬県立県民健康科学大学地域連携センター設置運営規程

(設置)

第1条 この規程は、群馬県公立大学法人組織規程第7条の規定に基づき、群馬県立県民健康科学大学地域連携センター（以下「センター」という。）の設置及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、県立の医療系大学として、大学が所有する知的財産や研究成果等を、県民をはじめ、広く教育機関、医療機関、医療従事者、行政等に対し還元することにより、県民の保健、医療及び福祉の向上に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次のことに係る事業を実施するものとする。

- (1) 看護学教員養成課程に関すること
- (2) 看護師特定行為研修課程に関すること
- (3) 県立病院・県内病院等との連携に関すること
- (4) 看護職に対する研究支援に関すること
- (5) 放射線教育・研修に関すること
- (6) 放射線測定等に関すること
- (7) 教育普及に関すること
- (8) 地域との連携推進に関すること
- (9) 県と連携した健康福祉政策に関すること
- (10) 健康寿命延伸プロジェクトに関すること
- (11) その他前条の目的を達成するために必要なこと

(組織)

第4条 センターには、センター長及び副センター長を置く。

- 2 前条に定める事業を推進し、目的を達成するため、地域連携センター運営会議（以下「センター運営会議」という。）を設置する。
- 3 センター運営会議に、前条の事業を実施するため、地域連携センター運営委員会（以下「センター運営委員会」という。）を置く。
- 4 センター運営会議及びセンター運営委員会は、センター長が主宰する。
- 5 副センター長は、センター長を補佐する。

(協議及び報告)

第5条 センター長は、センター事業の運営方針や進捗状況等について、大学運営会議に協議及び報告するものとする。

(事務)

第6条 センター運営会議及び運営委員会の事務は、事務局教務係で処理する。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、センターの設置運営に関し必要な事項については、学長が別に定めるものとする。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

群馬県立県民健康科学大学地域連携センター運営会議及び 地域連携センター運営委員会設置運営細則

(趣旨)

第1条 この細則は、群馬県立県民健康科学大学地域連携センター設置運営規程第7条の規定に基づき、地域連携センター運営会議（以下「センター運営会議」という。）及び地域連携センター運営委員会（以下「センター運営委員会」という。）の組織及び運営等について必要な事項を定めるものとする。

(センター運営会議の組織)

第2条 センター運営会議は、次の構成員によって組織する。

- (1) 地域連携センター長（以下「センター長」という。）及び副センター長
- (2) 学部長
- (3) センター事業の担当者から互選により選ばれた責任者
- (4) 事務局長
- (5) 学外有識者
- (6) 県職員の内からセンター長が必要と認める者
- (7) その他センター長が必要と認める者

(センター運営会議委員の任期)

第3条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員が生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター運営会議の運営)

第4条 センター運営会議は、センター長が招集し、その議長となる。

- 2 センター長が出席できないときは、センター長が指名する者がその職務を代理する。
- 3 センター運営会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
- 4 センター運営会議の議事は、出席委員の過半数によりこれを決定し、可否同数のときは議長が決定する。

(センター運営会議の審議事項)

第5条 センター運営会議は、次の事項について審議する。

- (1) 地域連携センターの運営方針に関する事項
- (2) 地域連携センターの事業計画の策定及び評価に関する事項
- (3) 地域連携センターに係る規程の制定又は改廃に関する事項
- (4) その他センター長が必要と認める事項

(センター運営委員会の組織)

第6条 センター運営委員会は、次の構成員によって組織する。

- (1) センター長及び副センター長
- (2) 学部長
- (3) センター事業の担当者から互選により選ばれた責任者
- (4) その他センター長が必要と認める者

(センター運営委員会委員の任期)

第7条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員が生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター運営委員会の運営)

第8条 センター運営委員会は、センター長が招集し、その議長となる。

- 2 センター長が出席できないときは、センター長が指名する者がその職務を代理する。
- 3 センター運営委員会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
- 4 センター運営委員会の議事は、出席委員の過半数によりこれを決定し、可否同数のときは議長が決定する。

(センター運営委員会の審議事項)

第9条 センター運営委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 地域連携センターの運営及び事業の実施に関する事項
- (2) 地域連携センターの事業計画及び評価の検討に関する事項
- (3) 地域連携センターに係る規程の制定又は改廃の検討に関する事項
- (4) その他センター長が必要と認める事項

(委員以外の者の出席)

第10条 センター運営会議及びセンター運営委員会の議長は、会議の運営上必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

令和元年度地域貢献活動報告書

発行者 群馬県立県民健康科学大学
〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1
TEL 027-235-1211
FAX 027-235-2501
印刷所 朝日印刷工業株式会社

